

# 阿多粕遺跡

ふるさと林道開設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

岐 阜 縿  
財団法人 岐阜県文化財保護センター

## 序

大野郡久々野町阿多柏地区は、太平洋側と日本海側を結ぶ国道41号線から東の谷筋に入った所に集落を営んでいます。この地は、急峻な飛騨川沿いの道が近世に改良されるまでは、古来より重要な街道であり、交通の要衝でありました。

このたび、ふるさと林道開設事業に伴い、埋蔵文化財の記録保存を行うために、阿多柏遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査は高山山林事業所から岐阜県教育委員会に委託され、財団法人岐阜県文化財保護センターが担当しました。

今回の発掘調査の結果、縄文時代早期の押型文土器をはじめ、縄文時代各時期の土器や石器が出土しました。土器には黒鉛入りのものがあり、また、石器類の中には下呂石や黒曜石もあったことから、この地は太古より、やはり交通の要衝であったことが明らかになりました。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関各位の温かい御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なる御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター  
理事長 篠 田 幸 男

## 例　　言

1. 本書は岐阜県大野郡久々野町阿多柏字道下に所在する阿多柏遺跡（遺跡番号21606-00685）の発掘調査報告書である。
2. 本調査はふるさと林道開設事業に伴うもので、高山山林事業所から岐阜県教育委員会を通じて委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。
3. 発掘調査は、平成9年度に実施し、渡辺誠名古屋大学文学部教授の指導のもとに上嶋善治が担当した。
4. 本書に記載した遺物の実測は、次の者が主に行った。

|            |       |      |      |
|------------|-------|------|------|
| 縄文土器（拓本含む） | 横井さだ子 | 畠中裕子 | 岩田　舞 |
| 石器         | 前畠裕美  | 上嶋善治 | 大石崇史 |
5. 実測図等のトレースは次の者が主に行った。

|      |      |      |
|------|------|------|
| 脇潤純子 | 白栗由美 | 政井美子 |
|------|------|------|
6. 遺物の写真撮影は佐藤右文氏に依頼した。
7. 本書の執筆は、第2章第1節は藤岡比呂志が、他は上嶋が執筆したが、縄文土器については谷口和人・大石崇史、石器については上原真昭・大石崇史の協力を得た。編集は上嶋が行った。
8. 空中写真撮影は㈱イビソクに委託して行った。
9. 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関から御助言・御指導・御協力をいたしました。記して感謝の意を表す次第である。（敬称略・順不同）

|      |      |         |           |
|------|------|---------|-----------|
| 吉朝則富 | 大石崇史 | 久々野町農林課 | 久々野町阿多柏地区 |
|------|------|---------|-----------|
10. 発掘調査作業ならびに調査記録及び出土品の整理等には、次の方々の参加・協力を得た。

|      |       |       |      |      |      |      |      |
|------|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 坂谷正道 | 川浦　泉  | 飯塚八十子 | 稲本　嗣 | 清水佐市 | 青木　茂 | 蒔田利光 | 渡瀬　保 |
| 清水　武 | 横井さだ子 | 畠中裕子  | 岩田　舞 | 前畠裕美 | 脇潤純子 | 白栗由美 |      |
11. 土層および遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』（1997）を参照した。
12. 調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

## 目 次

|                 |    |
|-----------------|----|
| 序               |    |
| 例 言             |    |
| 第1章 調査の経緯       | 1  |
| 第1節 調査に至る経緯     | 1  |
| 第2節 発掘調査の経緯     | 3  |
| 第2章 遺跡の環境       | 4  |
| 第1節 阿多柏遺跡の地形・地質 | 4  |
| 第2節 歴史的環境       | 7  |
| 第3章 調査の概要       | 11 |
| 第1節 基本的層序       | 11 |
| 第2節 遺物の概要       | 13 |
| 第3節 繩文土器        | 14 |
| 第4節 石器類         | 25 |
| 第4章 まとめ         | 40 |
| 引用・参考文献         | 41 |

## 図版目次

- 図版1 1. 遺跡遠景 2. 発掘前の状況  
図版2 1. 遺跡全景 2. 発掘後の状況 3. 作業風景  
図版3 1. 7B区トレンチ北壁 2. 9Bトレンチ北壁 3. 10B～11B区北壁  
図版4 1. 14B区北壁 2. 遺物出土状況 3. 尖頭器出土状況  
図版5 1. 縄文土器 第I・II群 2. 縄文土器 第III群  
図版6 1. 縄文土器 第IV群 2. 縄文土器 第V・VI群  
図版7 1. 縄文土器 第VII群 2. 縄文土器 底部  
図版8 1. 石器類 石鎌・石錐・尖頭器・石匙 2. 石器類 削器・搔器  
図版9 1. 石器類 両極剥離痕のある石器・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・石核  
2. 石器類 打製石斧  
図版10 1. 石器類 磨石・凹石・敲石類

## 挿図目次

- 第1図 遺跡の位置 ..... 1  
第2図 地区設定図 ..... 2  
第3図 阿多柏遺跡周辺の接峰面図 ..... 5  
第4図 阿多柏遺跡周辺の地質図 ..... 6  
第5図 阿多柏遺跡および周辺の遺跡 ..... 9  
第6図 土層図 ..... 12  
第7図 遺物の出土状況 ..... 13  
第8図 縄文土器(1)第I・II群 ..... 15  
第9図 縄文土器(2)第III群 ..... 17  
第10図 縄文土器(3)第IV群 ..... 18  
第11図 縄文土器(4)第V・VI群 ..... 19  
第12図 縄文土器(5)第VII群 ..... 20  
第13図 縄文土器(6)底部 ..... 21  
第14図 石器類(1)石鎌・石錐・尖頭器 ..... 27  
第15図 石器類(2)石匙・削器 ..... 29  
第16図 石器類(3)搔器・両極剥離痕のある石器 ..... 30  
第17図 石器類(4)二次加工のある剥離・使用痕のある剥片・石核 ..... 33  
第18図 石器類(5)打製石斧 ..... 34  
第19図 石器類(6)磨石・凹石・敲石類 ..... 35

## 付表目次

- 第1表 阿多柏遺跡周辺の遺跡 ..... 10  
第2表 縄文土器観察表 ..... 22  
第3表 石器一覧表 ..... 36

## 第1章 調査の経緯

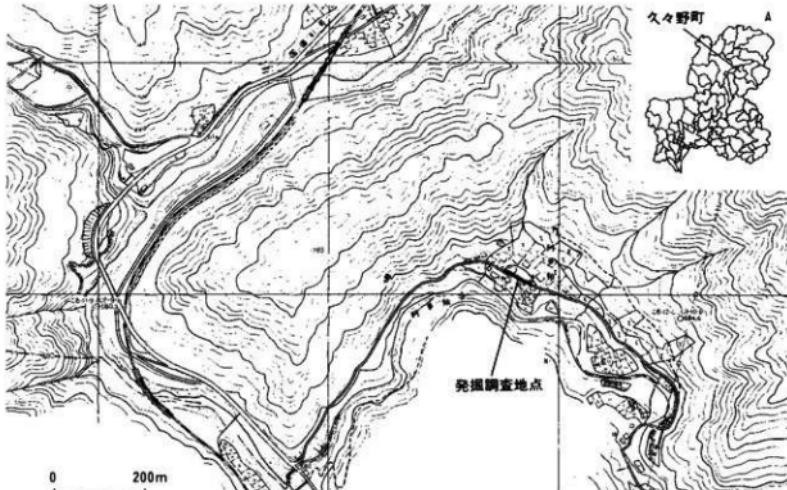
### 第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査で阿多柏遺跡が対象となったのは、高山山林事業所のふるさと林道開設事業による。この遺跡は、縄文時代の遺物散布地として知られており、工事予定地点の周辺では、縄文土器片、石器類が表面採集されていた。

平成7年8月22日に、岐阜県教育委員会文化課と岐阜県文化財保護センターによって事前の踏査を行い、道路に隣接する畑から石匙1点、土器片・下呂石のフレイク類等多数が表採できた。また、同年11月20日に、高山山林事業所、久々野町農林課と岐阜県文化財保護センターの三者が立ち会って、試掘調査を行った。試掘調査は、道路周辺の畠地に3か所手掘りでトレンチを入れた。遺物は出土しなかったが、遺物包含層の可能性のある土層が見られた。

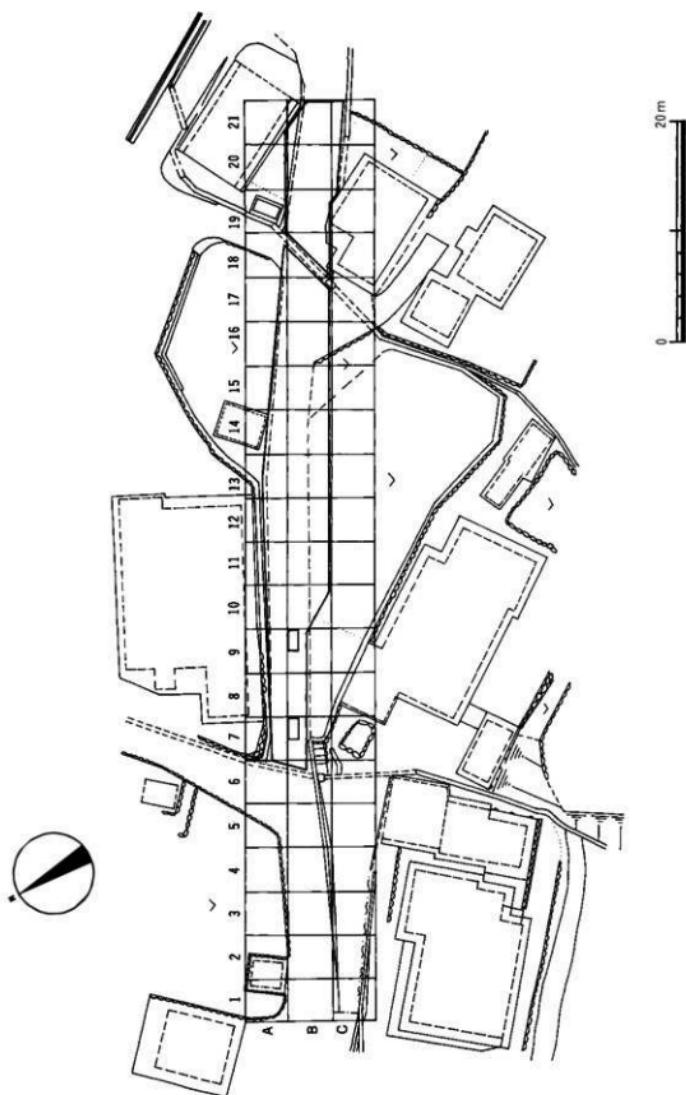
現道部分を掘削するため迂回路を確保して発掘調査を行うことになり、調査可能な地点300m<sup>2</sup>を発掘調査することになった。

発掘調査にあたっての地区の設定は、設計予定の道路の方向に合わせて4×4mのグリッド設定を行った。北からA列・B列・C列とし、西から東へ1列・2列・3列とした。発掘調査を進めて行く段階で西側は、遺物の密度が非常に薄く、9列のあたりから西側は谷地形になっていることが判明した。従って、西側の6列までは、掘削の必要がなくなった。また、7列から9列までは、部分的なトレンチ掘りとし、それより東側は平面発掘とした。



第1図 遺跡の位置

2 第1節 調査に至る経緯



第2図 地区設定図

## 第2節 発掘調査の経緯

現地での調査は、5月上旬に現場事務所の設営や用具の搬入を行い、5月中旬より作業を開始した。以下、週ごとに調査経過を記述する。

第1週（5.12～5.16）重機を利用して、現道の舗装を剥いだ。アスファルトの下のパラス層まで除去した。人力による掘削を15日から開始の予定であったが、雨天のため翌16日から開始した。

第2週（5.19～5.23）調査地点の中央部の湧水を迂回させた。19B区から21B区のあたりは第II層から第III層にかけて掘削が進んだ。21B区では押型文土器片が出土し、黒鉛入り土器も出土した。20B区では無文の土器片が比較的集中して出土した。7B区で土層観察のためのトレンチを入れた。西方は谷地形になっており深い。遺物の出土もほとんどない。

第3週（5.26～5.29）20B区から条痕文の土器片が出土しており、縄文晩期と推定された。16B区から17B区にかけて、第II層から第III層の掘削を始めた。16B区は下呂石の剥片類が多く、17B区では、無文の土器片が多く出土する。9B区にトレンチを入れた。9B区のあたりまでは、遺物がほとんど出土しない。

第4週（6.2～6.5）雨天の日が多い。16B区で加曾利B2式の羽状沈線文の土器片が出土。10B区から4B区の第II層から第III層を掘削した。遺物は少ない。

第5週（6.9～6.13）17B区では、土器片が集中的に出土した。遺構検出作業を合わせて行ったが検出されなかった。15B区から16B区にかけて有茎式の石鏃が出土した。第III層の下方に砂混じりの層を挟んで最下層に黒色土層があり、ⅢL層とした。主として縄文早期の遺物が出土する。

第6週（6.16～6.19）16B区で浮線文系土器が出土した。12B区から14B区北壁のセクションを実測し、北側へ掘り広げた。15B区南側で土器が集中的に出土した。縄文地に凹線文が施された土器である。

第7週（6.23～6.27）15B区から16B区および10B区から11B区の北壁のセクションを実測した。最下層は、亜角礫の点在する砂礫層である。11B区から12B区のあたりは、水がしみ出てきた。砂礫層の直上でわずかに遺物が出土する。

第8週（6.30～7.4）調査区全域の清掃作業を行い、空中写真撮影を実施した。7月4日で現地での発掘調査を終了した。なお、7月7日までに埋め戻し作業を終了した。

以後、財團法人岐阜県文化財保護センター飛騨出張所にて整理作業を行った。

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 阿多柏遺跡の地形・地質

#### 1 阿多柏遺跡周辺の地形

本調査地域は、久々野町の飛騨川支流阿多柏川沿いに位置する。周囲を見ると、東方12~13kmには鈴蘭高原が広がり、東南方約20kmには御嶽山が位置する。

第3図に、阿多柏遺跡周辺の接峰面図を示した。この地域の地形を概観すると、御嶽火山を除いては、一般に、標高1,400~1,700mの山頂高度をもち、その中でも南方に位置する御前山、東方に位置する濁河山、法仙峰などの山頂周辺部には小起伏浸食面<sup>13)</sup>が認められる。また、これらの1,600~1,700mの小起伏面の少し下位に、標高1,200~1,500mの小起伏面が東方の鈴蘭高原一帯に広がっている。

これらの山地を流れる河川は、飛騨川とその支流であり、木曾川水系に属する。阿多柏遺跡周辺の山地は、飛騨川本流及びその支流によって深く下刻され、谷筋と尾根筋との比高は一般に500mを越えている。なかでも、御前山とその西側の飛騨川本流との比高は1,300mにも達する。阿多柏遺跡は標高が630m弱であるが、すぐ南の山頂は約920mであり、北の山頂は約1,000mである。周辺ほど陥しくはないが、300~400m程度の高度差がある。阿多柏遺跡の南を流れる阿多柏川は、羽毛状の河系を呈し、支流は非常に短い。

阿多柏遺跡は、阿多柏川の支流による扇状地上に存在する。ただし、支流は短いため、扇状地として小さく、平均勾配は約2/10（平均傾斜角は約11°）であり、やや勾配は急である。

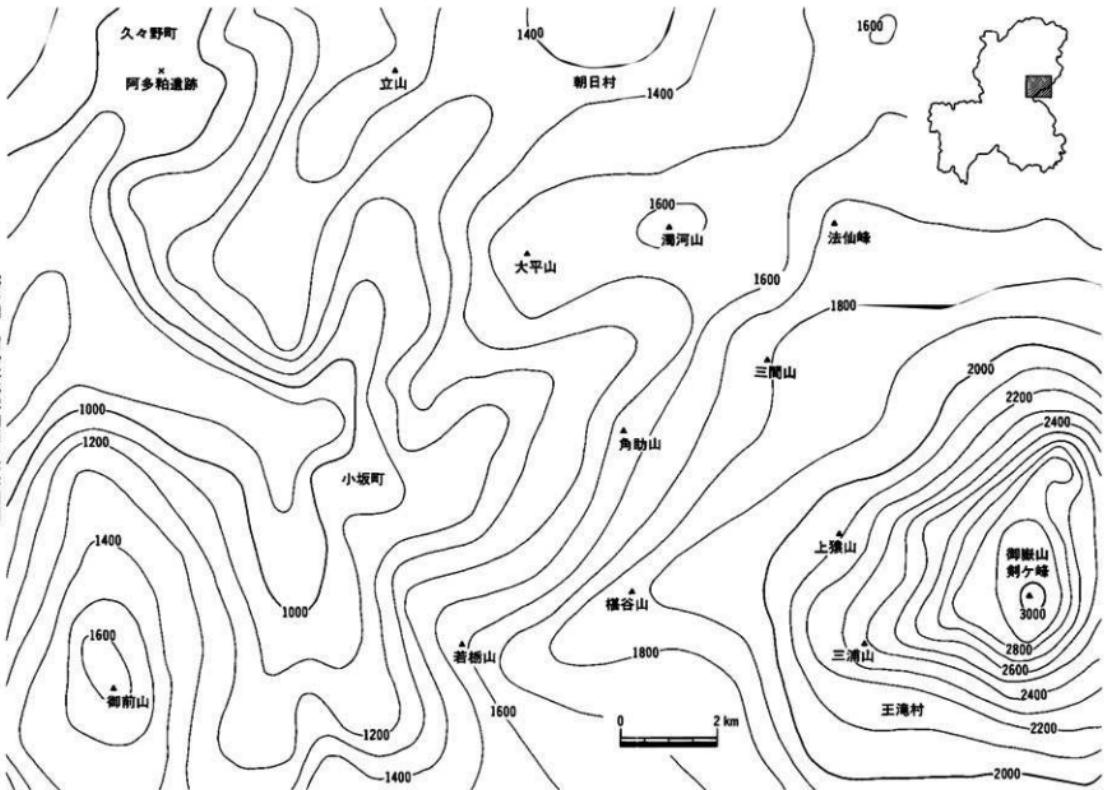
#### 2 阿多柏遺跡周辺の地質

阿多柏遺跡周辺の地質図を第4図に示した。阿多柏遺跡周辺には、濃飛流紋岩が広く分布する。濃飛流紋岩は、岐阜県全体の約1/3に分布する大規模な火山岩体である。これは、中生代白亜紀<sup>14)</sup>後期（約9,000万~約6,500万年前）に噴出し、主に流紋岩~流紋デイサイト質の溶結凝灰岩<sup>15)</sup>からなる。この濃飛流紋岩を貫く花こう斑岩および花こう閃綠斑岩の岩体がいくつか飛騨川沿いに分布する。その中で一番大きな岩体が、本調査地域の南西約3kmに北北西~南南東にのびる幅0.2~1km、長さ約4kmの花こう斑岩である。

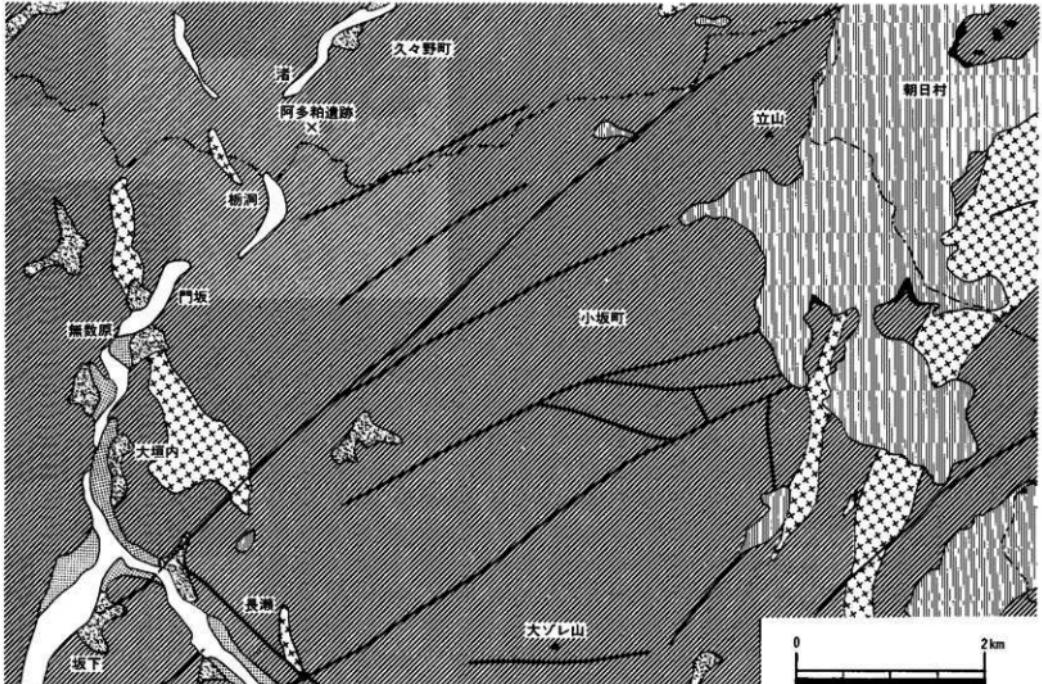
また、阿多柏川の上流から南にかけていくつかの岩体に分かれて、鈴蘭高原玄武岩と呼ばれる玄武岩が分布する。大きな岩体は、小坂町・朝日村境の鈴蘭高原一帯に南北約6km、東西約5kmに分布する岩体と、その南方の大平山付近に分布する岩体の2つである。それ以外は、小岩体として分布し、各所で濃飛流紋岩類を貫いている。

このような地質であるため、阿多柏遺跡の南を流れる阿多柏川の疊は、90%ほどが濃飛流紋岩、約10%が玄武岩である。

(1:50,000地形図「御嶽山」を一辺2km方眼の最高点の標高にもとづいて等高線作図)



(5万分の1地図抜粋「阿多川・立山河谷調査区」を元に作成)



2km

## 参考文献

|                                |           |       |
|--------------------------------|-----------|-------|
| 御嶽山地域の地質（1988）                 | 山田直利・小林武彦 | 地質調査所 |
| 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)<br>新版 地学事典 | 地学団体研究会編  | 平凡社   |

- 1) 小起伏浸食面……陸上において、様々な要因によって削り取られ形成された起伏の小さい波状の浸食面をさす。
- 2) 白亜紀……中生代を三分したうちの最後の地質年代で、約1億4,560万年～約6,500万年前の約8,060万年をさす。
- 3) 溶結凝灰岩……火山灰やその他の火山放出物が、高温の火碎流として火山体を流下し堆積した場合、堆積物の内部は高温のため火山ガラスなどの物質が一度溶融し、結合しあうことがある。そのような岩石を溶結凝灰岩と呼ぶ。

## 第2節 歴史的環境

阿多柏遺跡は、大野郡久々野町阿多柏字道下に所在する。阿多柏集落は、久々野町の南端に位置し、益田郡小坂町と隣接する。東方の阿多柏谷と方顧谷の二つの谷川を合わせた阿多柏川が西流して飛騨川と合流する。集落の北側に山々が迫っており、谷川の右岸に広がる扇状地上に遺跡が立地する。

以前から縄文時代の遺物散布地として知られていたが、詳細は不明であった（岐阜県教委1990）。事前の踏査および試掘調査の結果、下呂石製の石匙・剥片類などの石器類が出土していた。

この地には、1790（寛政2）年に廃止された阿多柏口留番所が置かれていた。益田方面より信州へ通ずる玄関口であった。

現在、飛騨地方の中心を絶する国道41号線は、益田郡萩原町から小坂町および久々野町の中央部を抜けて宮峰を越えて、大野郡宮村、高山市へと続く。しかし、古代における官道は、萩原町の上呂で飛騨川の右岸に渡り、萩原町山之口を経て位山峠を越えて、宮村へ通じていた。

天正年間（1573～92）になって、金森長近によって久々野一渚一小坂の河内路の難所が開発された。河内郷は、現在の久々野町の引下、木賊洞、長淀の3地区を言う。この辺りは飛騨川が曲流し、交通の難所であった。従って、上呂以北から高山へ向かう人は阿多柏から大野郡朝日村の桑生谷、甲、美女峠を経由した方が安全であった（菱村ほか1972）。

つまり、阿多柏の地は現在は国道から東に入った地区であるが、かつては交通の要衝であった。そして、発掘調査地点は、現道の舗装を剥いでから調査したが、「道下」という字名からも分かるようになつての道は、北の山側を通っていた。

さて、阿多柏遺跡周辺の遺跡の分布を見ると、飛騨川の沿岸あるいは谷に入った所に縄文時代の遺跡が点在する。また、阿多柏から東へ向かい細越峠を越えて、大野郡朝日村に入ると、秋神川流域に縄文遺跡が散在している。発掘調査された遺跡等を中心に、そのいくつかを概要をまとめると次のようになる。

### 藤原遺跡

1992（平成4）年に岐阜県文化財保護センターによって発掘調査が行われた。遺構としては、ピット、土坑および配石遺構である。配石遺構は、縄文早期のいわゆる焼躁集積遺構の一類と考えられる。遺物としては、縄文早期の茅山下層式の土器や、後期の前葉から中葉にかけての土器、石器類が出土している。また、わずかに押型文土器や黒鉛入り土器も出土しており、当遺跡との出土遺物の時期的な関係が注目される（上嶋1993）。

### 諸遺跡

高山線鉄道工事に伴う家屋移転の際に、縄文土器の口縁部が見つかっている。内部に灰が入っていたと言われる。土器を埋設した炉の可能性もある（林1938）。また、その付近から縄文中期の土器の完形品が出土しており、いわゆる手焙形土器と報告されている（江馬1937）。

### 門板シズマ遺跡

1991（平成3）年に岐阜県文化財保護センターによって発掘調査が行われた。遺構としては、堅穴住居跡を想定させるピット群が2か所検出され、縄文時代中期初頭の土器が比較的まとまって出土した（上嶋1992）。出土土器の型式としては鷹島式とともに新保式が伴っており、飛騨地方の縄文中期初頭の土器編年の検討資料となっている（増子1995）。

### 中道遺跡

1966（昭和41）年に、山麓の畠地を造成工事する際に、小林繁氏によって採集された遺物が報告され（小林1969）、さらに『岐阜県史』で取り上げられている（大參1972）。遺物は、縄文土器と石器類であるが、土器は押型文土器である。山形文、格子目文、楕円文、山形と楕円の複合文がある。山形文は、口縁に沿って帯状に施文され、さらに綫の施文が加えられたり、綫の沈線が刻まれているものもある。また、黒鉛入りのものもある。後述するように阿多柏遺跡の押型文土器との類似点が指摘できる。

### 西洞遺跡

海拔1350mの高地に位置する。ゴルフ場建設の際に、いわゆる神子柴型の大型尖頭器が1点出土した。石材は珪質頁岩製であるが、原石は長野県北部から新潟県にかけて産出すると言われている。大きさは、長さ14.6cm、幅4.5cmである（小林1970）。



第5図 阿多祐遺跡および周辺の遺跡

## 10 第2節 歴史的環境

第1表 阿多柏遺跡周辺の遺跡（岐阜県教育委員会『岐阜県遺跡地図』1990をもとに作成）

| 番号 | 遺跡名     | 所在地          | 時代    | 備考                       |
|----|---------|--------------|-------|--------------------------|
| 1  | 中道遺跡    | 大野郡朝日村西洞中道   | 縄文    | 文献（小林1969）               |
| 2  | 新井遺跡    | 大野郡朝日村宮ノ前新井  | 縄文    |                          |
| 3  | 寺垣内遺跡   | 大野郡朝日村宮ノ前寺垣内 | 縄文    |                          |
| 4  | 津島遺跡    | 大野郡朝日村西洞津島   | 縄文    |                          |
| 5  | 西洞遺跡    | 大野郡朝日村西洞大沼原  | 縄文    | 1968（昭和43）年ゴルフ場建設により一部滅失 |
| 6  | 牛牧遺跡    | 大野郡久々野町諸牛牧   | 縄文    |                          |
| 7  | 長淀遺跡    | 大野郡久々野町長淀浅場  | 縄文    |                          |
| 8  | 藤原遺跡    | 大野郡久々野町諸ヲシロ  | 縄文    | 1992（平成4）年発掘調査           |
| 9  | 片篠遺跡    | 大野郡久々野町諸上林   | 縄文    |                          |
| 10 | 諸遺跡     | 大野郡久々野町諸奥垣内  | 縄文    |                          |
| 11 | 阿多柏遺跡   | 大野郡久々野町阿多柏道下 | 縄文    |                          |
| 12 | 松尾遺跡    | 益田郡小坂町門坂松尾洞  | 縄文    |                          |
| 13 | 川原なぎ遺跡  | 益田郡小坂町岩崎川原ナギ | 縄文    |                          |
| 14 | 岩崎神社遺跡  | 益田郡小坂町岩崎上田   | 縄文    |                          |
| 15 | 門坂シズマ遺跡 | 益田郡小坂町門坂シズマ  | 縄文    | 1991（平成3）年発掘調査           |
| 16 | 杉山遺跡    | 益田郡小坂町無数原杉山  | 縄文    |                          |
| 17 | 森ヶ平遺跡   | 益田郡小坂町無数原森ヶ平 | 縄文・弥生 |                          |

## 第3章 調査の概要

### 第1節 基本的層序

今回の発掘調査では、明確な遺構は検出されなかった。調査地点は、北から南へ土砂の流れ込みが激しく、西方は谷地形になっており、複雑な層位を示している。出土する遺物は磨耗が激しいことから、今回の発掘調査地点は、本来の遺跡の中心部をはずれた地点であるようである。遺物の包含層は、大きく2層に分層できるが、後述する遺物の出土状況にも反映している。

**第I層 表土** 表土は、道路部分では舗装面およびその下の埋土であり、畠地では耕作土である。前者は、約20cmの厚さであり、後者は、約40~50cmの厚さで堆積していた。

I a層 黒褐色土 (10YR3/1) しまり、粘性ともに弱い。径1~2cmの礫を含む。耕作土。

I b層 灰白色土 (5YR7/1) よくしまっている。粘性はない。3~10cmの角礫を含む。舗装下の砂利を敷いた部分である。

**第II層 埋土および流れ込んだ土層** と考えられる。東方は薄く約30cmの厚さであるが、西へ向かうほど厚くなり、7B区では1m以上になる。

II a層 黒褐色土 (10YR3/2) しまりはあるが、粘性は弱い。

II b層 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) しまりはあるが、粘性は弱い。径2~3cmの礫が混じる。

II c層 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりはあるが、粘性は弱い。径3~5cmの礫が混じる。

II d層 黄橙色土 (10YR7/8) しまりがあり、粘性もややある。

II e層 黒褐色土 (10YR2/2) しまり、粘性ともにややあり。径2~5cmの礫が混じる。

II f層 褐色土 (10YR4/4) しまりがややあり、粘性は弱い。径2~3mmの砂粒を含む。

II g層 黒褐色土 (10YR3/1) しまりは弱いが、粘性はややある。

II h層 黄褐色砂礫土 (10YR5/6) しまりはややあり、粘性は弱い。径3~5cmの礫が多い。

**第III層 遺物包含層** と判断した。約50~70cmの厚さで堆積している。次のように細分されるが、大きく見ると、III f層を挟んで上層と下層に分層できる。

III a層 黒褐色土 (10YR3/1) しまりは弱いが、粘性はややある。

III b層 黒褐色土 (10YR2/3) しまりは弱く、粘性はややある。砂粒を含んでいる。

III c層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) しまりは弱く、粘性も弱い。径2~4mmの砂粒多い。

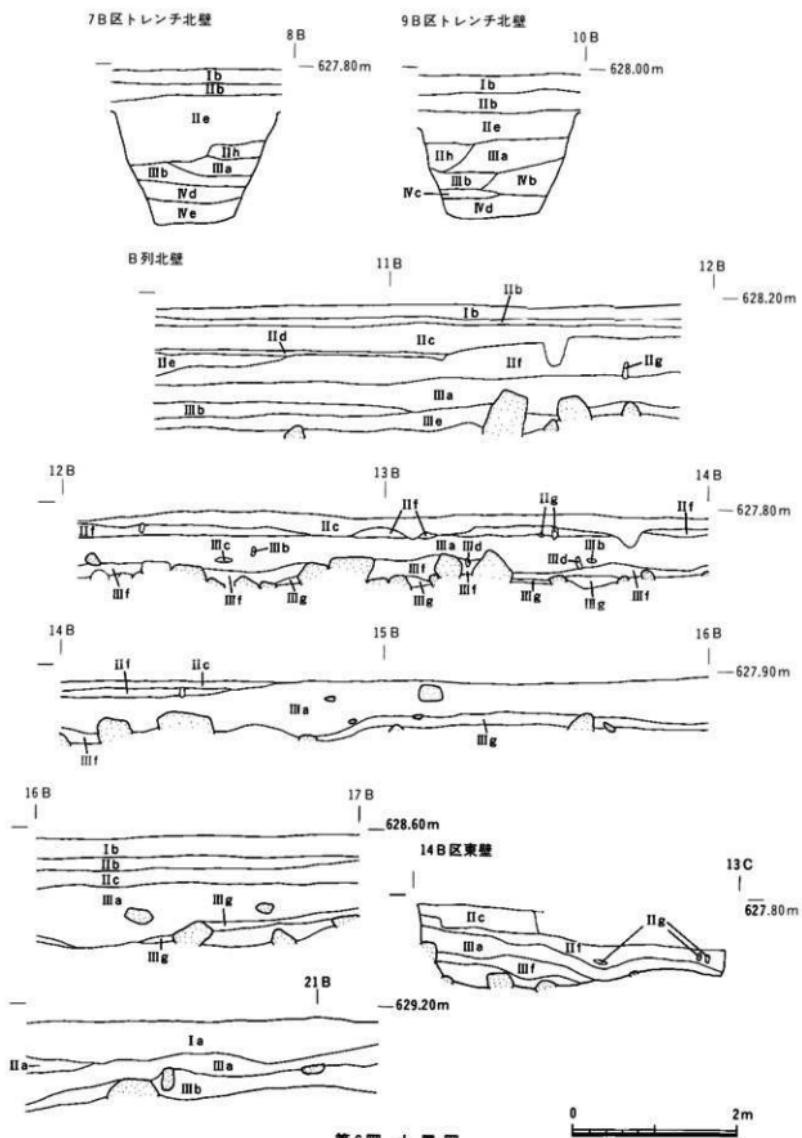
III d層 褐色土 (7.5YR4/4) しまりは弱く、粘性はややある。

III e層 黒色土 (10YR2/1) しまりは弱く、粘性も弱い。

III f層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりはやや弱く、粘性は弱い。径1~2mmの砂粒を含む。

III g層 黒色土 (7.5YR2/1) しまり、粘性ともにややあり。

12 第1節 基本的層序



第6図 土層図

第IV層 砂質および砂礫質の土が流れ込んだ土層である。遺物は確認されなかった。

IV a 層 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) しまりはややあり、粘性は弱い。

IV b 層 明黄褐色砂礫土 (10YR6/6) 径3~5cmの砂礫が多い。

IV c 層 黒褐色土 (10YR3/1) しまり、粘性ともにややあり。径1~2cmの礫を少し含む。

IV d 層 ぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり、粘性ともにややあり。径2~10cmの礫を含む。

IV e 層 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性は弱い。径2~10cmの礫を含む。

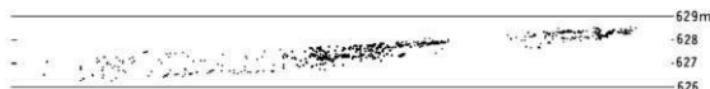
第V層 明黄褐色土 (10YR6/6) の地山である。

## 第2節 遺物の概要

出土した遺物は、縄文土器および石器類が2269点である。縄文土器はほとんどが小片であるが、早期の押型文土器、後期および晚期の土器などである。押型文土器には黒鉛入りのものがある。石器類としては、下呂石の剥片が多く出土しているが、その中に混じて黒曜石もある。縄文時代においても、この地は交通の要衝であったと言える。また、製品としては、石鎌、石錐、石匙、削器、搔器、打製石斧、磨石・凹石・敲石類等が出土しているが、石鎌や打製石斧が比較的多く出土している点が注目される。

遺物の出土状況は、調査地点の東側に多く、西側に少ない。18B区のあたりは、水路が横断している地点である。東側の遺物は、縄文後晩期の土器が中心に出土した層と、早期の遺物が出土した層に2分される。また、西側は、まばらな分布を示し、流れ込んだ状況を反映している。なお、尖頭器が13B区南側の最下層で出土した。

|   | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| A |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| B |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| C |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |



第7図 遺物の出土状況

### 第3節 繩文土器

出土した繩文土器はほとんど小破片で1527点である。全体的に磨耗が激しく、比較的まとまった土器は無文の土器であり、時期が推測される有文のものは少ない。早期の黒鉛入りの土器から晩期の土器まで、時期幅は広い。後期中葉の土器が比較的多いがそれでも少量である。時期や施文方法等により、次の7群に分類して記述する。

#### 第Ⅰ群 早期から前期初頭の土器（第8図1～21、図版5）

調査区の東側20B～21B区のあたりで押型文土器が出土し、13B区のあたりで、早期末から前期初頭と思われる土器が出土している。次の6類に分類する。

##### 1類 黒鉛入りの土器（第8図1～4）

胎土に黒鉛を含む。磨耗が激しく表面の施文状況の観察が困難である。沢式に相当すると考えられるが、山形文が施文されているかどうか不明である。

##### 2類 押型文（山形文）の土器（第8図5～7）

山形文が縦方向に施されている。器厚は4～5mmである。角のある山形状を呈し、2単位で長さは12mm、条数は不明である。1単位は6.5mm×2.8mmである。

##### 3類 押型文（楕円文）の土器（第8図8～10）

楕円文が横位に施されている。器厚は約6mmである。いわゆる穀粒状を呈し、2単位で長さ10mm、条数は5条と思われるが、長さは15.5mm以上である。1単位は4.2mm×3.2mmである。8は、帯状に施文された間に縦に沈線が施されている。

##### 4類 その他の施文の土器（第8図11～13）

11は、格子目文が縦方向に施文されている。単位は不明である。器厚は7mmである。12は、器厚8mmで、磨耗が激しいが刺突列が見られる。13は器厚7mm、刺突列が2列観察される。

##### 5類 繊維を含む土器（第8図14～19）

無文であるが、胎土に纖維を含む土器である。条痕は観察されなかった。

##### 6類 早期末から前期初頭にかけての土器（第8図20・21）

20・21ともに器厚4mmと薄手である。前者は無文であるが、後者は、刺突が見られる。

#### 第Ⅱ群 中期の土器（第8図22～29、図版5）

少量であるが第Ⅱ層から第Ⅲ層にかけて、繩文中期後半の土器が出土している。分布はまばらであ

る。施文方法により次の3類に分類する。

#### 1類 隆帶あるいは沈線による施文の土器（第8図22～26）

22・23は波状口縁で、沈線による渦巻きが波頂部に見られる。6B区で出土している。24は、縦方向に隆帶と沈線があり、隆帶上に刺突が連続して施されている。25は、縄文地に沈線が縦位に施される。26は、隆帶が垂下していて、沈線が縦位および斜位に施される。

#### 2類 凹線が施された土器（第8図27）

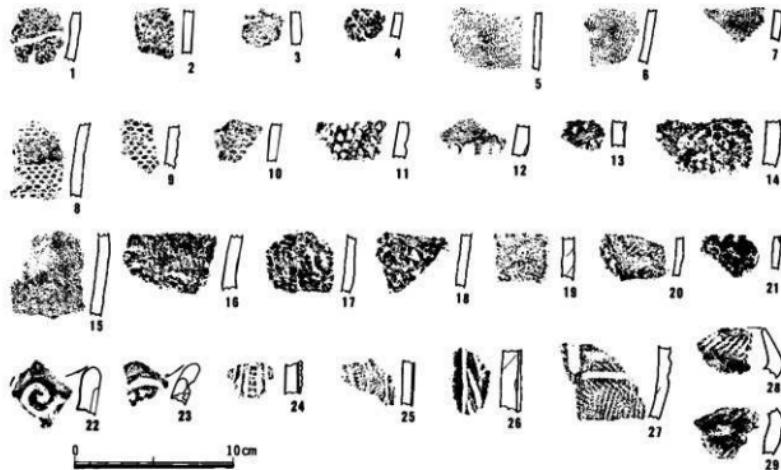
27は、縄文地に幅が広く深い沈線（凹線）が縦位および横位に施されている。指で押されたような施文であるが、施文の状況や胎土等から見て、後期の凹線文土器とは異なる。中期後葉に見られるものである。

#### 3類 キャリバー形の土器（第8図28・29）

28・29は同一個体である。キャリバー形で内湾する土器で、口縁部に無節の縄文が施されている。いわゆる東海系の土器であろう。10B区で出土している。

#### 第III群 後期の土器（第9図、図版5）

有文の土器が少量であるが出土している。前葉から後葉にかけての各時期のものがある。中葉の羽状沈線を施したもののが比較的まとまっている。



第8図 縄文土器(1)第I・II群

**1類 前葉の土器（第9図30・31）**

30は、くの字状に屈曲する口縁部で、口縁端部に沈線が縦横に施されている。31は、縄文地に刻みの入った微隆起線が横走する。

**2類 中葉の土器（第9図32～41）**

羽状沈線を施すもの（32～36）と、沈線が横走するもの（37～40）がある。32は外反する口縁で、端部に連続刻みが入る。33～35は羽状沈線文が施された胴部片である。36は、同一個体と思われる破片を並べたものである。口縁部にR Lの縄文が施され、頸部に羽状沈線が施されると推定される。胴下半部は無文である。32～36はいずれも16B区で出土している。

37は波状口縁で、R Lの縄文地に沈線が口縁に沿って3本、頸部に2本横走し、口縁内面に縄文が施される。38～40は、胴部片であるが、沈線が2本横走する。38・39はともにR Lの縄文が施文されている。40は無文で、沈線は深い。

41は、くの字に内屈する器形で、屈曲部に沈線が横走し縄文が施されている。口縁部および胴部は無文である。元住吉山I式段階のものと考えられる。

**3類 後葉の土器（第9図42・43）**

凹線文の土器である。15B区から15C区にかけて出土している。42は外反する器形で、縄文地に5本の凹線が横位に引かれている。43は、同一個体と思われる破片を集めたものであるが、やはり外反する器形で、縄文地に凹線が2本引かれている。

**第IV群 晩期の土器（第10図、図版6）**

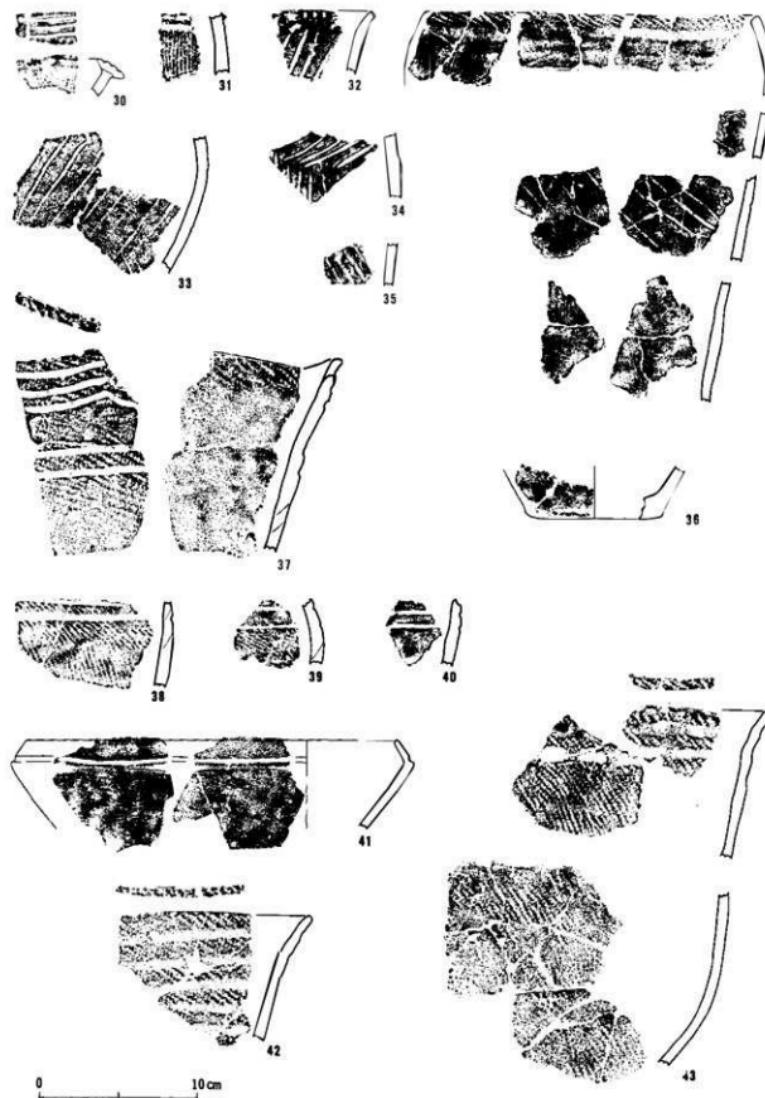
時期が特定できないが、晩期の土器が少量出土している。主に15B区から17B区にかけて分布している。前半と後半の2類に分類して記述する。

**1類 前半の土器（第10図44～56）**

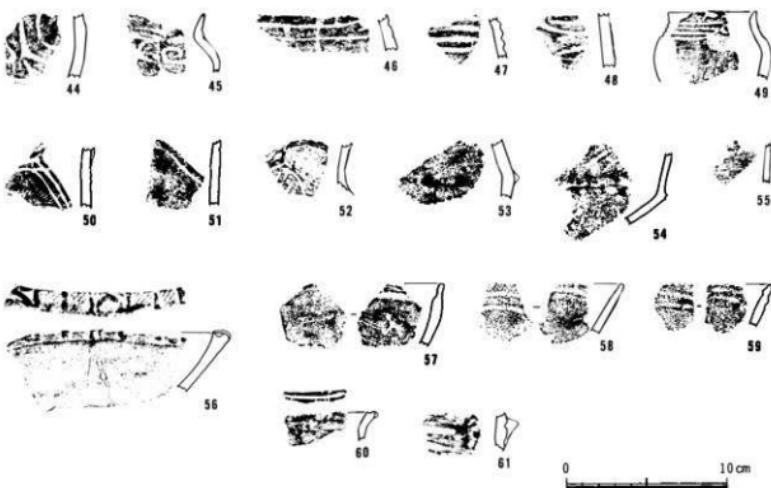
44は三叉文が見られる。45は、屈曲する頸部で、縄文地に入り組み風の文様が見られる。46～49は、横方向に沈線が施されている。49は、推定であるが、口径5.5cmの小型の鉢形土器である。口縁部に沈線が4本施されている。50～52は同一個体である。沈線が曲線的に施されている。53は、内屈する器形で、瘤状の突起がある。54・55は同一個体である。器厚が4～5mmと薄い。54は、わずかに隆帯を有する屈曲部があり、上方に縄文が施文されている。55は、浅い沈線が引かれ、赤彩されている。10B区で出土している。56は浅鉢形土器である。口縁端部に縄文を施し、隆帯が貼りつけてある。

**2類 後半の土器（第10図57～61）**

57はやや開き気味の口縁で、内面に沈線が1本横走する。58・59は同一個体である。直線的にやや開く口縁部で、内面に沈線が2本横走する。12B区で出土している。60は、外反する器形で口縁端部に沈線が施されている。20B区で出土している。61はいわゆる浮線状の文様が施され、突起がある。



第9図 繩文土器(2)第III群



第10図 繩文土器(3)第IV群

## 第V群 繩文の土器（第11図62～91、図版6）

時期の特定は困難であるが、器厚、胎土等から見て、62～70は縄文中期、72～91は縄文後晩期と推定した。71は直立する口縁部で器厚が5mmと薄い。撫糸文が施されている。

## 第VI群 条痕文の土器（第11図92～105、図版6）

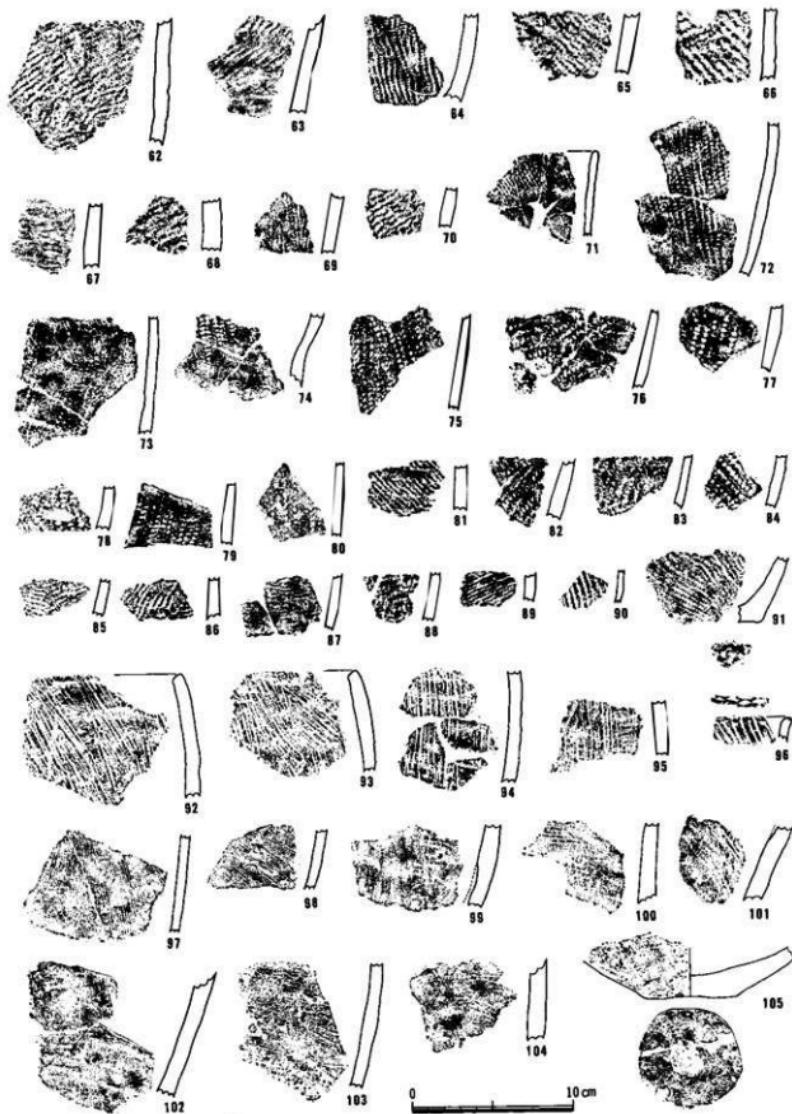
92～95は同一個体である。直線的にやや内傾する口縁で、はっきりした条痕が斜位または縦位に施されている。96は、わずかに外反する口縁で、斜位に条痕が施されている。口縁端部に刺突が見られる。97・98は、目が細かく細密条痕と考えられる。99～105は、わずかに条痕調整が観察される。105の底部は、なで調整である。底部から立ち上がる角度が大きく、浅鉢と推定される。

## 第VII群 無文の土器（第12図、図版7）

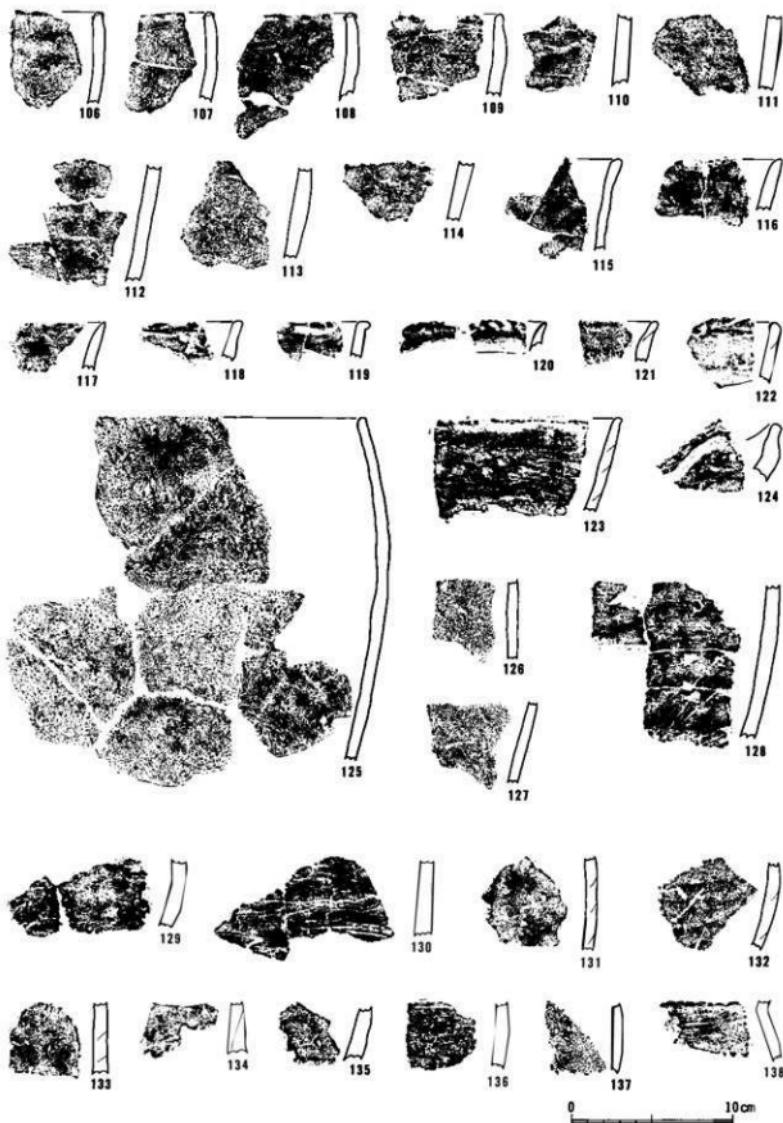
時期の特定は困難であるが、器厚、胎土から見て、106～114は縄文中期、115～138は縄文後晩期と推定した。

106～108は同一個体である。やや内湾気味に立ち上がる口縁で、端部に指押さえが見られる。109は直立する口縁である。110～114は器形不明の胴部片である。

115～123は外傾する口縁である。120・122は、口縁端部内面に刻みが見られる。124は波状を呈する。125は内湾する口縁であり、126・127と同一個体である。128～137は器形不明の胴部片である。138は頸部のくびれ部と推定される。



第11図 横文土器(4)第V・VI群



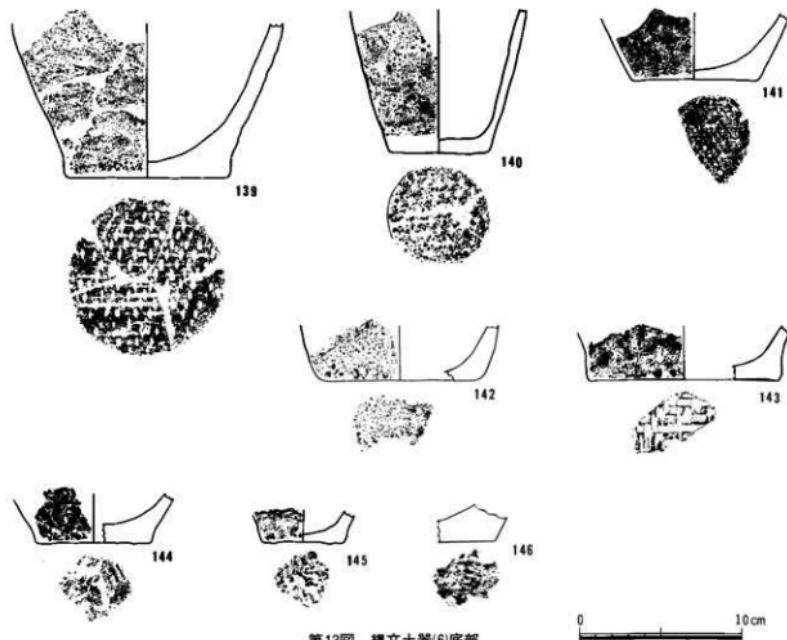
第12図 繩文土器(5)第VII群

## 底部 (第13図、図版7)

底部は12点出土している。時期の特定が困難であるが、出土状況や胎土・施文等から見て、ほとんどが後期から晩期にかけてのものであろう。

器形は、底部からくびれを持たず立ち上がるるもの4点(141・142・145)、底部から垂直に立ち上がりながらから胴部に至るもの7点(139・140・143・144)、不明1点(146)である。底部から胴部への立ち上がりの角度は、110度以下の胴部に膨らみを持たない深鉢3点(140・142)、120度以下の胴部が膨らむ深鉢4点(139・141・144)、140度以下の鉢形土器あるいは胴下半部が大きく膨らむ深鉢1点、140度以上の浅鉢や皿形土器1点、不明3点(145・146)である。

底部の圧痕に関しては、網代圧痕が9点、ナデが1点、不明2点である。網代圧痕は、「1本越え1本潜り1本送り」1点(140)、「2本越え2本潜り1本送り」1点(143)、「2本越え1本潜り1本送り」3点(139・141)、不明4点(144~146)である。



第13図 縄文土器(6)底部

## 土器観察表の記号について

観察項目の記号は次の通りである。

〔器形〕Aは深鉢形土器、Bは浅鉢形土器、Cは小型の鉢形土器。

〔焼成〕a~eの5段階で示す。硬くしまった土器をaとする。

〔胎土〕砂粒の含有量をa~eの5段階で示す。30%以上の多量の場合をaとする。

第2表 繩文土器観察表

| 番号 | 地区  | 層 | 器種 | 文様・調整     | 焼成 | 胎 土  | 色 調            | (表面・裏面)        |
|----|-----|---|----|-----------|----|------|----------------|----------------|
| 1  | 20B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 黒鉛 | 10YR6/6 明黄褐色   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 2  | 21B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 黒鉛 | 10YR6/6 明黄褐色   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 3  | 20B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 黒鉛 | 10YR6/6 明黄褐色   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 4  | 21B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 黒鉛 | 10YR6/6 明黄褐色   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 5  | 21B | Ⅲ | A  | 押型文(山形文)  | a  | d    | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 6  | 20B | Ⅲ | A  | 押型文(山形文)  | a  | d    | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 7  | 20B | Ⅲ | A  | 押型文(山形文)  | a  | d    | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 8  | 21B | Ⅲ | A  | 押型文(椭円文)  | b  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 7.5YR6/6 橙色    |
| 9  | 21B | Ⅲ | A  | 押型文(椭円文)  | b  | c    | 7.5YR5/4 にぶい褐色 | 7.5YR5/4 にぶい褐色 |
| 10 | 20B | Ⅲ | A  | 押型文(椭円文)  | b  | c    | 7.5YR5/4 にぶい褐色 | 7.5YR6/6 橙色    |
| 11 | 15B | Ⅲ | A  | 押型文(格子目文) | b  | d    | 2.5Y6/2 灰黄色    | 10YR5/2 灰黄褐色   |
| 12 | 16B | Ⅲ | A  | 刺突        | c  | c    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR5/4 にぶい黄橙色 |
| 13 | 13B | Ⅲ | A  | 刺突        | c  | d    | 10YR5/2 灰黄褐色   | 10YR5/2 灰黄褐色   |
| 14 | 19B | Ⅲ | A  | 無文        | c  | b 織維 | 7.5YR5/6 明褐色   | 10YR7/6 明黄褐色   |
| 15 | 11B | Ⅲ | A  | 無文        | a  | c 織維 | 7.5YR6/6 橙色    | 7.5YR4/4 褐色    |
| 16 | 20B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | b 織維 | 7.5YR6/6 橙色    | 2.5Y4/2 暗灰黄色   |
| 17 | 21B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 織維 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR5/3 にぶい黄橙色 |
| 18 | 20B | Ⅲ | A  | 無文        | b  | c 織維 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR5/3 にぶい黄橙色 |
| 19 | 21B | Ⅲ | A  | 無文        | c  | c 織維 | 7.5YR5/4 にぶい褐色 | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 20 | 13B | Ⅲ | A  | 無文        | c  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 21 | 13B | Ⅲ | A  | 無文        | c  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 22 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | c    | 5YR6/6 橙色      | 5YR7/6 橙色      |
| 23 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | d    | 7.5YR7/6 橙色    | 7.5YR7/6 橙色    |
| 24 | 10B | Ⅲ | A  | 隆帯・沈線     | d  | b    | 7.5YR4/3 褐色    | 7.5YR4/3 褐色    |
| 25 | 14B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | b  | c    | 5YR6/6 橙色      | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 26 | 15A | Ⅲ | A  | 隆帯・沈線     | c  | e    | 10YR7/6 明黄褐色   | 7.5YR6/4 にぶい橙色 |
| 27 | 21B | Ⅱ | A  | 凹線・繩文     | b  | c    | 7.5YR5/4 にぶい褐色 | 7.5YR4/2 灰褐色   |
| 28 | 20B | Ⅱ | A  | 繩文        | c  | c    | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 29 | 20B | Ⅱ | A  | 繩文        | c  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 30 | 12B | Ⅲ | A  | 沈線        | c  | c    | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 10YR7/3 にぶい黄橙色 |
| 31 | 15C | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | c  | b    | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 32 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線・刺突     | b  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 33 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | c  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 10YR3/2 黒褐色    |
| 34 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | d    | 7.5YR7/4 にぶい橙色 | 7.5YR6/6 橙色    |
| 35 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | c    | 10YR4/2 灰黄褐色   | 5YR6/6 橙色      |
| 36 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | c  | c    | 7.5YR7/6 橙色    | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 37 | 20B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | c  | b    | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 10YR7/6 明黄褐色   |
| 38 | 15C | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | c  | b    | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 39 | 16B | Ⅱ | A  | 沈線・繩文     | c  | c    | 7.5YR7/4 にぶい橙色 | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 40 | 13B | Ⅲ | A  | 沈線        | c  | b    | 10YR7/2 にぶい黄橙色 | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 41 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | a  | d    | 2.5Y5/2 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 暗灰黄色   |
| 42 | 15B | Ⅲ | A  | 凹線・繩文     | b  | b    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 43 | 15B | Ⅲ | A  | 凹線・繩文     | c  | c    | 7.5YR5/2 灰褐色   | 7.5YR5/2 灰褐色   |
| 44 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | b  | c    | 2.5Y5/1 黄灰色    | 10YR5/2 灰黄褐色   |
| 45 | 15B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | b  | d    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 | 2.5Y5/2 暗灰黄色   |
| 46 | 16B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | c    | 5YR6/6 橙色      | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 47 | 15B | Ⅲ | A  | 沈線        | b  | c    | 2.5Y6/3 にぶい黄色  | 2.5Y6/3 にぶい黄色  |
| 48 | 15B | Ⅲ | A  | 沈線        | c  | b    | 10YR6/2 灰黄褐色   | 10YR6/3 にぶい黄橙色 |
| 49 | 16B | Ⅲ | C  | 沈線        | b  | c    | 7.5YR7/6 橙色    | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 50 | 15B | Ⅲ | A  | 沈線・繩文     | b  | c    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |

| 番号  | 地区  | 層   | 器種 | 文様・調整   | 焼成 | 胎 | 土 | 色調             | (表面・裏面)        |
|-----|-----|-----|----|---------|----|---|---|----------------|----------------|
| 51  | 15B | III | A  | 沈線      | b  | c |   | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 52  | 15B | III | A  | 沈線・繩文   | b  | c |   | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 53  | 17B | III | A  | 隆帯      | c  | b |   | 2.5Y6/3 にぶい黄色  | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 54  | 10B | III | A  | 繩文      | b  | d |   | 7.5YR7/4 にぶい橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 55  | 10B | III | A  | 沈線・赤色顔料 | b  | d |   | 7.5YR7/4 にぶい橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 56  | 15B | III | B  | 隆帯・繩文   | a  | c |   | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 7.5YR6/6 橙色    |
| 57  | 17B | III | A  | 内面に沈線   | b  | d |   | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 58  | 12B | III | A  | 内面に沈線   | b  | c |   | 2.5Y7/4 浅黄色    | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 59  | 12B | III | A  | 内面に沈線   | b  | c |   | 2.5Y7/4 浅黄色    | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 60  | 20B | III | A  | 沈線      | b  | c |   | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 7.5YR6/4 にぶい橙色 |
| 61  | 16B | III | A  | 隆帯・沈線   | b  | b |   | 7.5YR6/3 にぶい橙色 | 10YR7/3 にぶい黄橙色 |
| 62  | 21B | III | A  | 繩文      | c  | b |   | 10YR3/2 黒褐色    | 7.5YR4/6 極色    |
| 63  | 20B | II  | A  | 繩文      | c  | c |   | 2.5YR7/3 浅黄色   | 2.5Y8/3 浅黄色    |
| 64  | 20B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 10YR7/6 明黄褐色   | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 65  | 13B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 7.5YR6/6 橙色    | 7.5YR6/6 橙色    |
| 66  | 20B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 10YR3/3 暗褐色    | 7.5YR3/3 暗褐色   |
| 67  | 20B | II  | A  | 繩文      | c  | c |   | 2.5YR7/3 浅黄色   | 2.5Y8/3 浅黄色    |
| 68  | 10B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR6/4 にぶい橙色 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 |
| 69  | 15C | III | A  | 繩文      | c  | b |   | 10YR5/6 黄褐色    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 70  | 21B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 5YR5/6 明赤褐色    | 10YR2/1 黒色     |
| 71  | 20B | III | A  | 繩文      | b  | d |   | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 72  | 16B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 10YR8/4 浅黄褐色   | 10YR7/4 にぶい黄橙色 |
| 73  | 16B | III | A  | 繩文      | b  | b |   | 2.5Y7/3 浅黄色    | 2.5Y7/3 浅黄色    |
| 74  | 10B | III | A  | 繩文      | a  | b |   | 2.5Y7/3 浅黄色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 75  | 15C | III | A  | 繩文      | b  | b |   | 2.5Y6/1 黄灰色    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 76  | 16B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR7/6 橙色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 77  | 12B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 |
| 78  | 12B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 10YR5/3 にぶい黄褐色 | 10YR5/4 にぶい黄褐色 |
| 79  | 16B | III | A  | 繩文      | b  | b |   | 2.5Y7/2 灰黄色    | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 80  | 14B | II  | A  | 繩文      | b  | b |   | 2.5Y6/1 黄灰色    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 81  | 15B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 2.5Y5/2 暗灰黄色   | 5Y3/1 オリーブ黒色   |
| 82  | 15B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR7/6 橙色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 83  | 16B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR7/6 橙色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 84  | 15A | III | A  | 繩文      | c  | b |   | 7.5YR6/4 にぶい橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 85  | 15B | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 5YR4/6 赤褐色     | N2/ 黒色         |
| 86  | 15C | III | A  | 繩文      | b  | c |   | 5YR4/6 赤褐色     | N2/ 黒色         |
| 87  | 15A | II  | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR5/3 にぶい褐色 | 7.5YR5/3 にぶい褐色 |
| 88  | 16B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 7.5YR7/6 橙色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 89  | 15B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 10YR6/2 灰黄褐色   |
| 90  | 12B | III | A  | 繩文      | c  | c |   | 10YR3/2 黒褐色    | 10YR5/3 にぶい黄褐色 |
| 91  | 16B | III | A  | 繩文      | c  | b |   | 2.5Y7/2 灰黄色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 92  | 16B | III | A  | 条痕      | c  | b |   | 5YR5/6 明赤褐色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 93  | 16B | III | A  | 条痕      | c  | b |   | 5YR5/6 明赤褐色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 94  | 16B | III | A  | 条痕      | c  | b |   | 5YR5/6 明赤褐色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 95  | 16B | III | A  | 条痕      | c  | b |   | 5YR5/6 明赤褐色    | 10YR6/4 にぶい黄褐色 |
| 96  | 15B | I   | A  | 条痕      | a  | c |   | 10YR5/3 にぶい黃褐色 | 10YR5/3 にぶい黃褐色 |
| 97  | 15B | II  | A  | 条痕      | a  | c |   | 10YR3/2 黑褐色    | 10YR5/2 灰黄褐色   |
| 98  | 15C | II  | A  | 条痕      | a  | c |   | 10YR3/2 黑褐色    | 10YR5/2 灰黄褐色   |
| 99  | 20B | III | A  | 条痕      | b  | c |   | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 100 | 20B | III | A  | 条痕      | b  | c |   | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |

| 番号  | 地区  | 層   | 器種 | 文様・調整 | 焼成 | 胎土 | 色調(表面・裏面)      |                |
|-----|-----|-----|----|-------|----|----|----------------|----------------|
|     |     |     |    |       |    |    | 表面             | 裏面             |
| 101 | 20B | III | A  | 条痕    | b  | c  | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 102 | 20B | III | A  | 条痕    | b  | c  | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 103 | 20B | III | A  | 条痕    | c  | c  | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 104 | 20B | III | A  | 条痕    | b  | c  | 7.5YR8/6 浅黄橙色  | 10YR8/4 浅黄橙色   |
| 105 | 16B | III | B  | 条痕    | c  | a  | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 7.5YR6/6 橙色    |
| 106 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 107 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 108 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 109 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 110 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 111 | 16B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 112 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 113 | 17B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 114 | 16B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR5/6 明褐色   | 7.5YR5/6 明褐色   |
| 115 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 116 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 117 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 118 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 119 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 120 | 15C | II  | A  | 無文    | a  | c  | 7.5YR4/1 褐灰色   | 10YR5/1 褐灰色    |
| 121 | 20B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | 2.5Y6/2 灰黄色    |
| 122 | 20B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR7/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 123 | 19B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR6/6 明黄褐色   | 7.5YR7/6 橙色    |
| 124 | 15B | III | A  | 無文    | c  | b  | 5YR6/6 橙色      | 10YR8/3 浅黄橙色   |
| 125 | 15B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR4/4 褐色     | 10YR6/4 明黄褐色   |
| 126 | 15B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR4/4 褐色     | 10YR6/6 明黄褐色   |
| 127 | 15B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR4/4 褐色     | 10YR6/6 明黄褐色   |
| 128 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 129 | 16B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR4/2 灰黄褐色   | 7.5YR6/6 橙色    |
| 130 | 17B | III | A  | 無文    | a  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 7.5YR7/6 橙色    |
| 131 | 16B | III | A  | 無文    | b  | c  | 7.5YR6/6 橙色    | 7.5YR5/4 にぶい褐色 |
| 132 | 16B | II  | A  | 無文    | c  | c  | 10YR5/3 にぶい黄褐色 | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 133 | 20B | III | A  | 無文    | b  | c  | 2.5Y6/3 にぶい黄色  | 2.5Y6/3 にぶい黄色  |
| 134 | 15B | III | A  | 無文    | b  | c  | 5YR4/2 灰褐色     | 2.5Y3/1 黑褐色    |
| 135 | 21B | III | A  | 無文    | c  | c  | 10YR7/3 にぶい黄橙色 | 10YR8/2 灰白色    |
| 136 | 20B | II  | A  | 無文    | b  | c  | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 |
| 137 | 11B | II  | A  | 無文    | b  | c  | 7.5YR6/6 橙色    | 7.5YR6/6 橙色    |
| 138 | 20B | II  | A  | 無文    | b  | d  | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/6 明黄褐色   |
| 139 | 17B | III | A  | 無文    | c  | b  | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 140 | 15B | II  | A  | 無文    | b  | b  | 2.5Y6/3 にぶい黄色  | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 141 | 15B | III | A  | 無文    | c  | c  | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR5/4 にぶい黄褐色 |
| 142 | 16B | III | A  | 無文    | b  | b  | 2.5Y7/4 浅黄色    | 2.5Y7/4 浅黄色    |
| 143 | 14B | III | A  | 無文    | b  | c  | 2.5Y6/2 灰黄色    | 2.5Y7/2 灰黄色    |
| 144 | 19B | III | A  | 無文    | b  | c  | 10YR6/4 にぶい黄橙色 | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |
| 145 | 14A | II  | A  | 無文    | b  | d  | 7.5YR5/4 にぶい褐色 | 10YR4/2 灰黄褐色   |
| 146 | 19B | III | A  | 無文    | b  | c  | 7.5YR6/6 橙色    | 10YR6/4 にぶい黄橙色 |

#### 第4節 石器類

出土した石器類の総数は742点である。第Ⅱ層と判断した層からの出土のものもあるが、ほとんどが第Ⅲ層からの出土である。遺構が確認できなかったので、一括して器種ごとに記述する。

##### 石鏃（第14図1～26、図版8）

総数は41点である。石材は、下呂石37点（90.2%）、チャート2点（4.9%）、黒曜石2点（4.9%）である。他の器種と同様に下呂石製が圧倒的に多い。

形態に関しては、尖頭部と基部との組み合わせで分類した<sup>1)</sup>。

##### 尖頭部の分類

- 1類 銳角な尖頭部を持つもの。
- 2類 1類と同じく銳角な尖頭部を持つが、全体が細長いもの（全長が全幅の2倍以上）。
- 3類 鈍角な尖頭部を持つもの。
- 4類 先端が小さく尖り、側縁部の肩が張った形状を持つもの。
- 5類 先端が尖らず、丸いカーブを描くもの。
- 6類 先端が小さく尖り出しているもの。

##### 基部の分類

- A類 基部の中央部がU字型に深くえぐられているもの。
- B類 基部の凹状のえぐりが浅く不明瞭なもの。
- C類 基部が凹状のもの。
- D類 いわゆる平基鏃で、基部が直線状になるもの。
- E類 いわゆる円基鏃で、基部が丸みを帯びて突出したもの。
- F類 いわゆる有茎鏃で、基部に茎を持つもの。
- G類 いわゆる片足鏃で、基部に片方しか脚部を持つないもの。もしくは、一方の脚部が非常に小さいもの。

##### 破損、折損の部位による分類

- a 尖頭部欠損
- b 一方の脚部または基部の一部欠損
- c 脚部のみ残存
- d 尖頭部のみ残存
- e 尖頭部と一方の脚部欠損
- f 基部から胴部の半身欠損
- g 両脚を欠損

- h 基部を欠損（胴部と尖頭部が残存）
- i 胴部のみ（基部と尖頭部を欠く）

以上の分類によると、1 A類1点、1 B類7点、1 C類8点、1 D類3点、1 F類2点、2 B類1点、不明19点である。

1は1 A類であるが、縄文早期に見られるタイプのものである。また、9もやや肩が張った器形をしており、同様の時期の可能性がある。8・24・25は、いずれも偏平な剥片を利用し、比較的荒い剥離面を有するタイプで類似している。1 F類は後晩期のものと推定されるので、25の基部の形態から見て、8や24のようなものも同様の時期のものと考えられる。さらに、晩期に特徴的な4類が見あたらないことと、後期中葉から後葉の土器が比較的多く出土していることから、これらのものは後期の可能性が高い。

#### 石錐（第14図27～30、図版8）

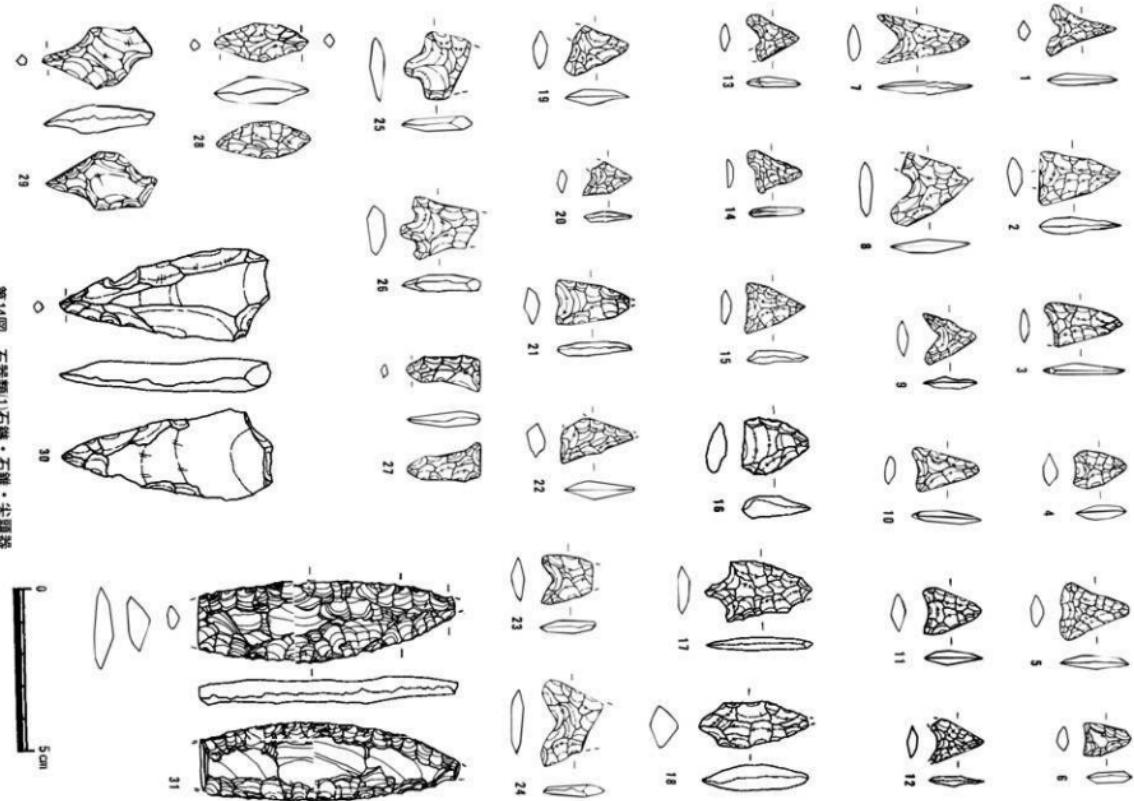
5点出土している。下呂石3点、チャート2点である。形態分類は以下のようである。

- 1類 全体の形状が棒状をなすもの。
  - 1 A類 両端が尖るもの。
  - 1 B類 錐部は一端のみに作られ、他端は鈍頭をなすもの（全面に調整加工を施されるものを原則とする）。
- 2類 剥片の一端に長い錐部を作り出し、明瞭なつまみ状の頭部を持つもの。
- 3類 明瞭なつまみ状の頭部を持つもので、錐部が著しく短いもの。
- 4類 錐部が次第に広がっていき頭部との区分が不明瞭なもの。
  - 4 A類 両面もしくは片面の全体が調整加工を施されているもの。
  - 4 B類 錐部の両側縁に調整加工の施されるもので、素材の剥片の形状を留めるもの。
- 5類 棒状あるいは長い三角形状の剥片の先端に微弱な調整加工を加え、そのまま錐として用いたもの。

以上の分類によると、1 A類1点、4 B類2点、不明2点である。

#### 尖頭器（第14図31、図版8）

13B区南側の最下層で出土した。石材は珪質頁岩製であろう。両面調整で、裏面は先行剥離面を残し、深形細部調整をしている。表面は中心部にまで調整が及んでいる。先端部整形と器形整形の剥離の相違ははっきりしない。形態は木葉形であるが、いわゆる柳葉形とも言える。飛騨地方の尖頭器に関しては、吉朝則富氏が大形および中形の尖頭器について集成を行っている（吉朝1995）。それによると28点の出土例がある。本製品は中形のものであるが、集成の中には類似したものがほとんど見あたらない。



第14図 石器類(1)石核・石錐・尖頭器

## 石匙（第15図32～35、図版8）

5点出土している。下呂石4点、チャート1点である。いずれもいわゆる横型のものである。32はつまみ部が中央部に位置する。赤色のチャートである。29の石錐が同様の石である。33はつまみ部のえぐりが弱く、腹面に剥離痕が見られる。35はえぐり部がやや不明瞭で、剥離痕も部分的にしか見あたらないが、全体的な形状から見て石匙と判断した。

## 削器（第15図36～41、図版8）

剥片の縁辺に連続的な調整によって刃部を作り出した石器を削器とした。刃部の作出方法により次のように分類する。

- 1類 片面加工により刃部を作り出したもの。
- 2類 片面加工により作出された刃部と、両面加工により作出された刃部を合わせ持つもの。
- 3類 両面加工により刃部を作り出したもの。

下呂石7点、チャート1点の計8点出土している。1類7点、3類1点であり、2類は見あたらなかった。

## 搔器（第16図42～46、図版8）

急角度に調整された刃部を持つ石器を搔器とした。刃部の位置と数により次のように分類する。

- 1類 素材の全周が刃部となるいわゆるラウンドスクレイパー。
- 2類 素材の一辺縁を除く三辺縁が刃部となるもの。
- 3類 縦長剥片が用いられ、その側縁と末端が刃部となるもの。
- 4類 素材の長軸先端部に刃部を作り出したもの。

下呂石5点、チャート2点の計7点出土している。2類4点、4類3点であり、1類および3類は見あたらなかった。

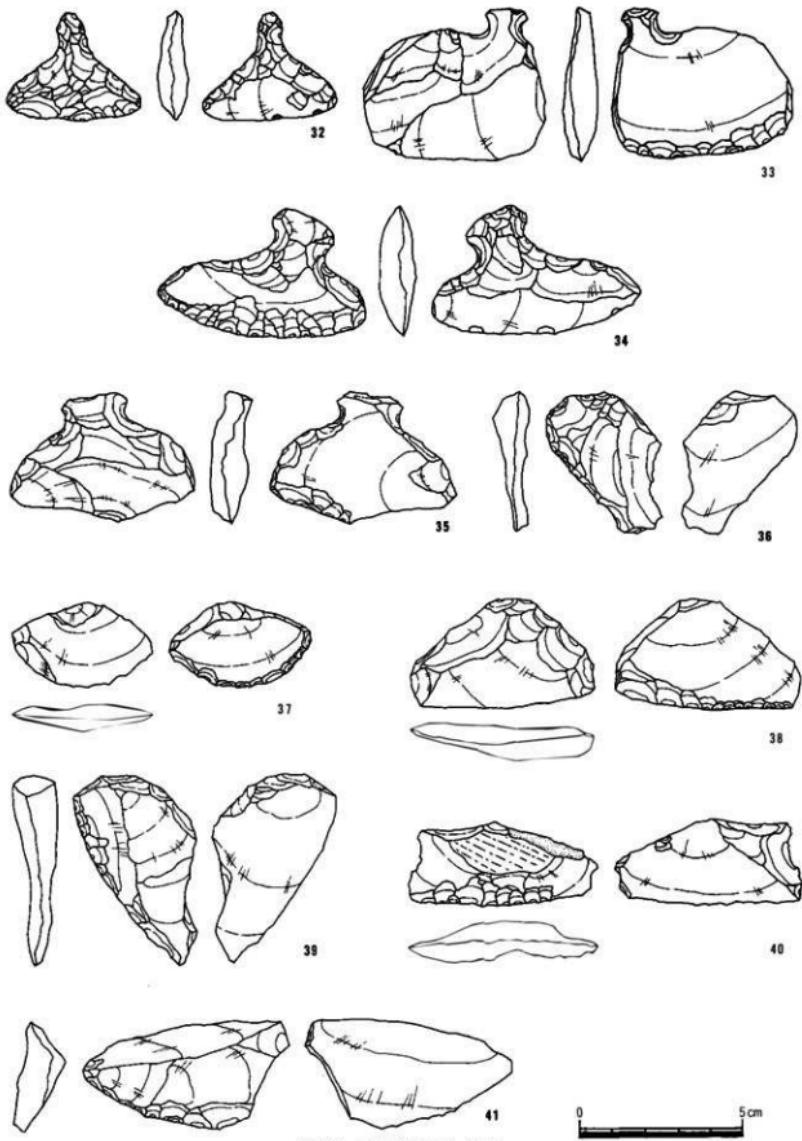
## 両極剥離痕のある石器（第16図47～49、図版9）

向かい合った二辺ないし四辺の辺縁部に剥離痕やつぶれが認められる石器。大部分がピエス・エスキューと考えられるが、機能的に異なるものが含まれると推定される。

3点出土しているが、いずれも下呂石製である。

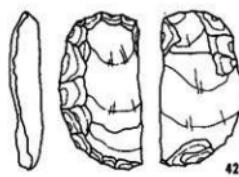
## 二次加工のある剥片（第17図50～55、図版9）

剥片の側縁に大小の剥離痕を連続して施したもの二次加工のある剥片とした。11点出土している。下呂石10点、チャート1点である。

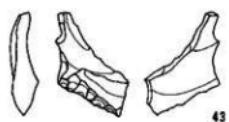


第15図 石器類(2)石匙・削器

30 第4節 石器類



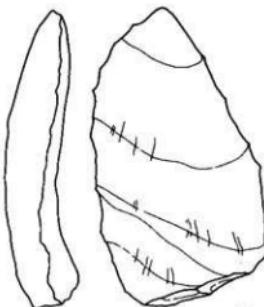
42



43



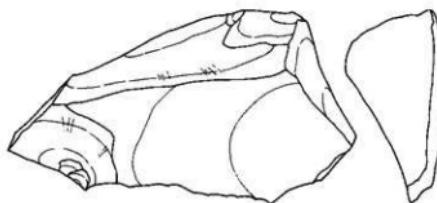
44



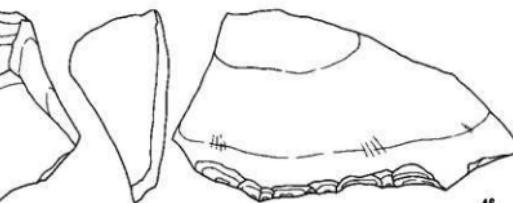
45



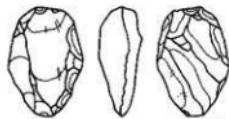
46



47



48



49



第16図 石器類(3)掻器・両極剥離度のある石器

#### 使用痕のある剥片（第17図56～58、図版9）

剥片の側縁に微細な剥離面が密接して、あるいは不規則に観察されるものを使用痕のある剥片とした。7点出土している。下呂石5点、チャート2点である。

#### 石核（第17図59・60、図版9）

3点出土している。石材はいずれも下呂石である。図示した59・60は、ともに、打面を1か所に設定し、残核が板状を呈する。

#### 剥片

包含層から出土した剥片類は583点である。石材は、下呂石525点（90.0%）、チャート40点（6.9%）、黒曜石13点（2.2%）、凝灰岩5点（0.9%）であり、やはり、下呂石が圧倒的に多い。

#### 打製石斧（第18図、図版9）

52点出土している。遺物数の割りには比較的多いように思われる。次のように分類する。

- 1類 頭部がほぼ平行な、いわゆる短冊形。
- 2類 脊部がくびれる、いわゆる分銅形。
- 3類 形状が基部に向かって収束する、いわゆる撥形。

#### 折損部位による分類

- a 刃部を欠く
- b 基部を欠く
- c 基部の一部を欠く
- d 脊部のみ（両端を欠く）
- e 破片

形態別では、1類31点、3類7点、不明14点である。71と72は同一個体であるが、約4m離れた地点から出土した。

#### 磨石・凹石・敲石類（第19図、図版10）

この類の石器では、磨痕・凹痕・敲打痕など複数の痕跡が重複していることが多く、機能も多様であると考えられるが一括して扱うこととする。形態については、まず平面形および断面形によって次のように分類する。

- 1類 平面形が円形のもの。
- 2類 平面形が楕円形のもの。
- 3類 平面形が方形のもの。

1～3類は、その断面形によりさらに4つに細分した。

A類 断面形が円形のもの。

B類 断面形が楕円形のもの。

C類 断面形が凸レンズ状のもの。

D類 断面形が方形のもの。

4類 角柱状や円柱状の自然縁を用いたもので、断面は多角形。

凹痕の数については、いわゆる表面・裏面・その他の面の個数を一覧表に示した。また、凹痕の形状について、次の1～3のように分類した。

1 敲打痕がかたまって浅い凹痕をつくっているもの。

2 すりばち状のはっきりした凹痕のあるもの。

3 右上がり状に広がる細長い凹痕を有するもの。

なお、磨面の状況については、ザラつく磨痕をA、滑らかな磨痕をBとした。

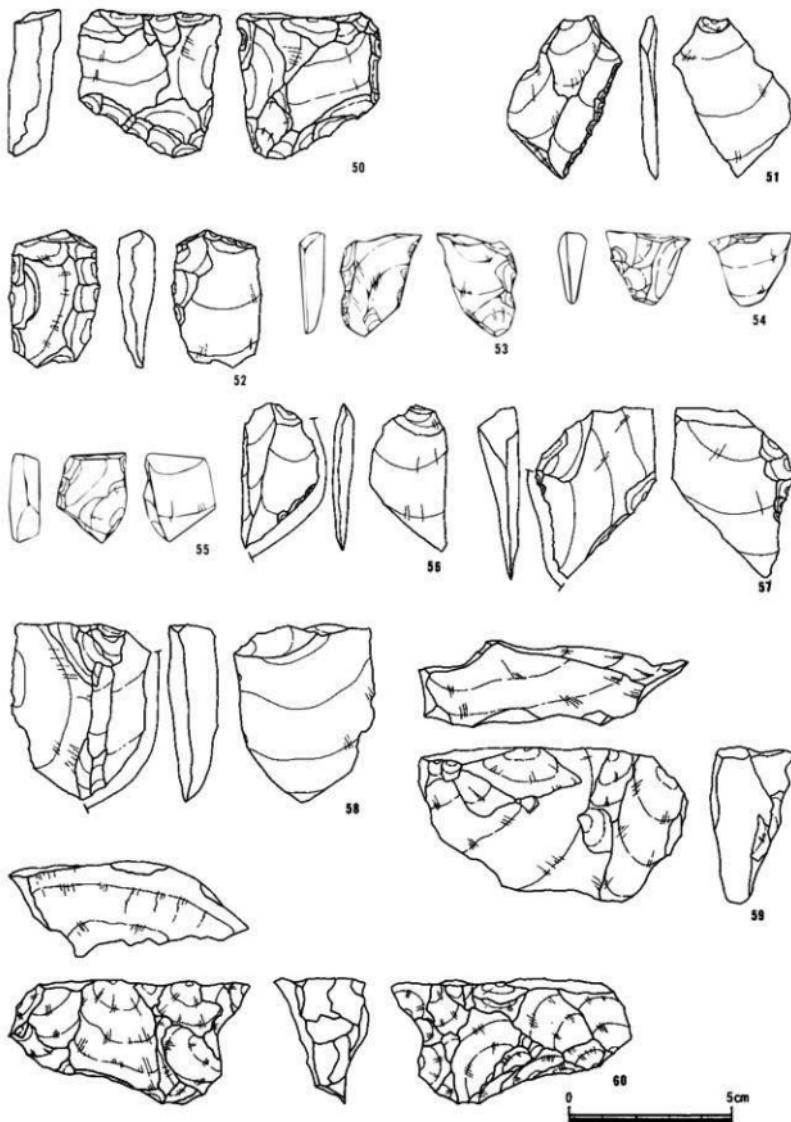
出土点数は15点である。形態別では、1B類1点、2A類1点、2B類8点、2C類1点、4類1点、不明3点となっている。

形態に関しては、2B類が多い（全体の53%）。また、凹みを有するものは3点のみであり、いずれも、浅い凹痕をつくっているものであった。

### 石皿

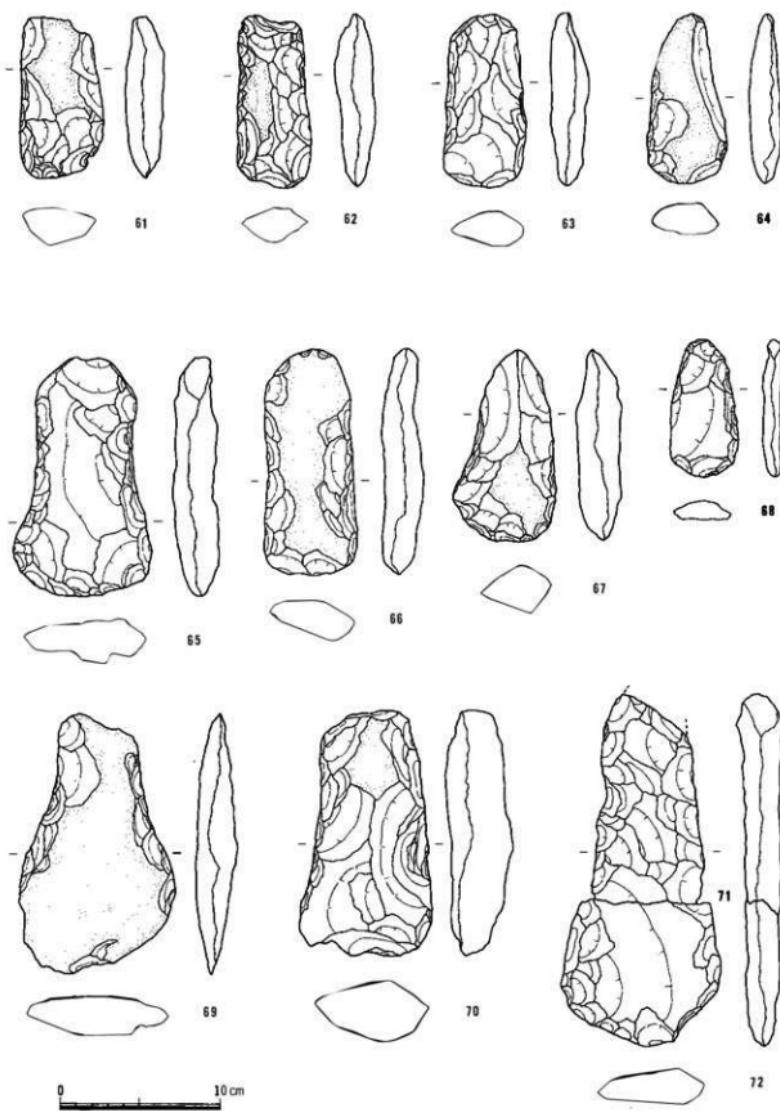
石皿は1点出土している。凝灰岩である。偏平な石で、3つに割れていたが、一部欠損している。

1) 分類に関しては、五味原遺跡群（岐阜県大野郡丹生川村）の発掘調査報告例を参考にした（上嶋ほか1997）。

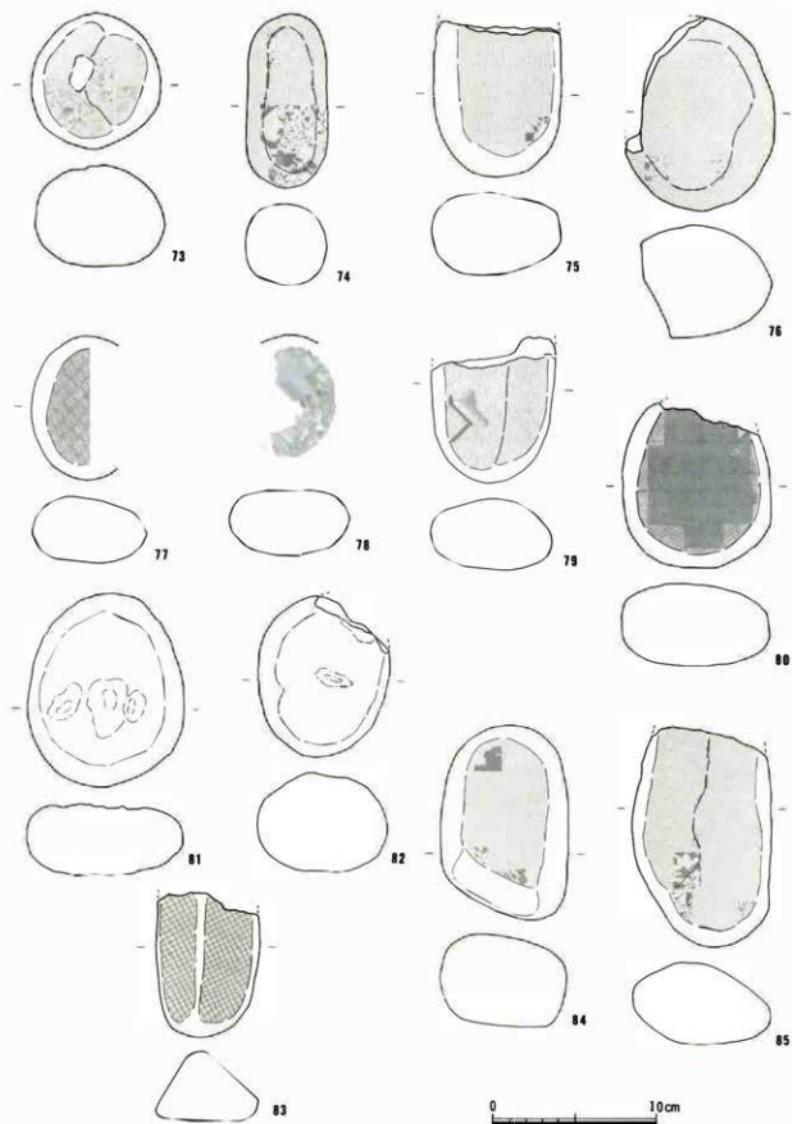


第17図 石器類(4)二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・石核

34 第4節 石器類



第18図 石器類(5)打製石斧



第19図 石器類(6)磨石・凹石・敲石類

第3表 石器一覧表

## 石錐

| 番号 | 出土区 | 層位  | 石材   | 長さ    | 幅     | 厚さ  | 重さ    | 分類 | 打柵 | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|-----|------|-------|-------|-----|-------|----|----|-------|----|
| 1  | 9B  | III | 下呂石  | (1.5) | 1.6   | 0.4 | (1.0) | —  | a  |       |    |
| 2  | 12A | III | 下呂石  | 1.6   | 1.5   | 0.3 | 0.4   | 1C |    | 14-13 |    |
| 3  | 12B | III | 下呂石  | 1.9   | 1.6   | 0.4 | 0.9   | 1D |    | 14-15 |    |
| 4  | 12B | III | チャート | 2.2   | 1.9   | 0.4 | 1.1   | 1B |    | 14-5  |    |
| 5  | 12B | III | 黒曜石  | 1.7   | 1.4   | 0.2 | 0.3   | 1C |    | 14-14 |    |
| 6  | 12B | III | 下呂石  | 1.8   | 1.9   | 0.4 | 0.9   | 1B |    |       |    |
| 7  | 12B | III | 下呂石  | 1.7   | 1.6   | 0.3 | 0.6   | 1C |    | 14-9  |    |
| 8  | 12B | III | 下呂石  | (1.8) | 2.7   | 0.3 | (1.5) | —  | a  |       |    |
| 9  | 12B | III | チャート | 1.5   | 1.1   | 0.4 | 0.5   | 1B |    | 14-6  |    |
| 10 | 12B | III | 下呂石  | 2.3   | 1.0   | 0.2 | (0.4) | 2B | i  |       |    |
| 11 | 12B | III | 下呂石  | 2.7   | 1.1   | 0.4 | 0.7   | 1B |    | 14-4  |    |
| 12 | 12B | III | 下呂石  | 2.9   | 1.7   | 0.4 | 0.5   | 1B |    | 14-7  |    |
| 13 | 13B | III | 下呂石  | (1.9) | 2.3   | 0.4 | (1.6) | —  | a  | 14-24 |    |
| 14 | 14B | II  | 下呂石  | 2.6   | 1.8   | 0.5 | 1.7   | 1B |    | 14-2  |    |
| 15 | 15B | II  | 下呂石  | (1.4) | 1.7   | 0.5 | (1.1) | —  | a  |       |    |
| 16 | 15B | III | 下呂石  | (2.0) | (1.6) | 0.4 | (0.8) | —  | e  |       |    |
| 17 | 15B | III | 下呂石  | 2.4   | (2.3) | 0.4 | (1.2) | 1C | b  | 14-8  |    |
| 18 | 15C | II  | 下呂石  | (2.4) | 2.1   | 0.5 | (1.9) | —  | a  | 14-26 |    |
| 19 | 15C | III | 下呂石  | 1.7   | 1.4   | 0.3 | 0.5   | 1C |    | 14-12 |    |
| 20 | 16B | II  | 下呂石  | 3.3   | 1.9   | 0.4 | 1.8   | 1F |    | 14-17 |    |
| 21 | 16B | II  | 下呂石  | 3.4   | 1.5   | 0.8 | 3.5   | 1F |    | 14-18 |    |
| 22 | 16B | II  | 下呂石  | (2.1) | 2.2   | 0.4 | (1.4) | —  | a  | 14-25 |    |
| 23 | 16B | II  | 下呂石  | (1.9) | 1.5   | 0.4 | (1.2) | —  | a  |       |    |
| 24 | 16B | II  | 下呂石  | (1.6) | 1.9   | 0.3 | (1.0) | —  | a  |       |    |
| 25 | 16B | III | 下呂石  | (1.9) | 1.7   | 0.5 | (1.5) | —  | a  |       |    |
| 26 | 16B | III | 下呂石  | (2.5) | (1.5) | 0.5 | (1.5) | —  | h  |       |    |
| 27 | 16B | III | 下呂石  | 2.1   | 1.6   | 0.3 | 0.7   | 1A |    | 14-1  |    |
| 28 | 16B | III | 下呂石  | (1.9) | (1.7) | 0.3 | (0.7) | —  | e  |       |    |
| 29 | 17B | III | 下呂石  | (2.3) | 1.4   | 0.4 | (1.3) | —  | a  | 14-21 |    |
| 30 | 20A | III | 黒曜石  | 2.6   | (1.1) | 0.3 | (0.4) | —  | b  | 14-20 |    |
| 31 | 20B | III | 下呂石  | 2.5   | 1.7   | 0.6 | 2.3   | 1D |    |       |    |
| 32 | 20B | III | 下呂石  | 2.5   | (1.4) | 0.3 | (0.8) | 1B | b  | 14-3  |    |
| 33 | 20B | III | 下呂石  | 2.0   | (1.6) | 0.4 | (0.9) | —  | b  | 14-19 |    |
| 34 | 20B | III | 下呂石  | 2.1   | 1.5   | 0.4 | 0.9   | 1C |    | 14-10 |    |
| 35 | 20B | III | 下呂石  | (1.7) | 1.6   | 0.4 | (0.9) | —  | a  | 14-23 |    |
| 36 | 20B | III | 下呂石  | 2.3   | (1.4) | 0.5 | (1.0) | —  | b  | 14-22 |    |
| 37 | 20B | III | 下呂石  | 2.6   | 1.3   | 0.2 | 0.6   | 1C | f  |       |    |
| 38 | 21B | III | 下呂石  | 1.9   | 1.4   | 0.4 | 0.8   | 1C |    | 14-11 |    |
| 39 | 21B | III | 下呂石  | 2.1   | 1.7   | 0.7 | 2.3   | 1D |    | 14-16 |    |
| 40 | 21B | III | 下呂石  | 1.7   | 1.0   | 0.2 | 0.3   | 1B |    |       |    |
| 41 | 表採  |     | 下呂石  | (1.0) | (0.9) | 0.3 | (0.1) | —  | h  |       |    |

## 石錐

| 番号 | 出土区 | 層位  | 石材   | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ   | 分類 | 授図番号  | 備考 |
|----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-------|----|
| 1  | 8B  | III | 下呂石  | 2.4 | 1.1 | 0.5 | 0.9  | —  | 14-27 |    |
| 2  | 15B | III | 下呂石  | 2.2 | 1.0 | 0.5 | 1.2  | —  |       |    |
| 3  | 15C | III | 下呂石  | 6.8 | 2.8 | 1.0 | 16.6 | 4B | 14-30 |    |
| 4  | 20B | III | チャート | 3.6 | 1.9 | 0.8 | 4.8  | 4B | 14-29 |    |
| 5  | 20B | III | チャート | 3.0 | 1.2 | 0.8 | 2.7  | 1A | 14-28 |    |

## 石匙

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ   | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|-------|----|
| 1  | 10B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.7 | 3.7 | 0.7 | 8.2  |       |    |
| 2  | 11B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.0 | 6.0 | 1.0 | 20.9 | 15-34 |    |
| 3  | 19B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.7 | 5.5 | 1.0 | 28.6 | 15-33 |    |
| 4  | 19B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.2 | 5.7 | 1.0 | 18.8 | 15-35 |    |
| 5  | 20B | Ⅲ  | チャート | 3.3 | 4.1 | 0.8 | 7.5  | 15-32 |    |

## 削器

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ   | 分類 | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|----|-------|----|
| 1  | 13B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.7 | 4.3 | 0.8 | 6.2  | 1  | 15-37 |    |
| 2  | 16B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.7 | 2.6 | 0.6 | 3.8  | 1  |       |    |
| 3  | 16B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.5 | 3.0 | 0.8 | 3.8  | 3  |       |    |
| 4  | 19B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.8 | 5.7 | 0.8 | 13.6 | 1  | 15-40 |    |
| 5  | 19B | Ⅲ  | チャート | 2.8 | 4.8 | 0.8 | 8.7  | 1  | 15-36 |    |
| 6  | 21B | Ⅲ  | 下呂石  | 3.2 | 6.4 | 1.5 | 18.0 | 1  | 15-41 |    |
| 7  | 21B | Ⅲ  | 下呂石  | 3.5 | 5.6 | 0.8 | 15.4 | 1  | 15-38 |    |
| 8  | 21B | Ⅲ  | 下呂石  | 6.3 | 3.4 | 1.4 | 19.1 | 1  | 15-39 |    |

## 擗器

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ  | 幅    | 厚さ  | 重さ    | 分類 | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|------|-----|-------|----|-------|----|
| 1  | 11B | Ⅲ  | チャート | 2.4 | 2.0  | 0.4 | 1.9   | 2  |       |    |
| 2  | 13B | Ⅲ  | 下呂石  | 7.5 | 6.1  | 1.7 | 62.5  | 4  | 16-45 |    |
| 3  | 14B | Ⅲ  | 下呂石  | 5.6 | 8.5  | 1.8 | 87.0  | 2  | 16-44 |    |
| 4  | 16B | Ⅲ  | チャート | 2.3 | 3.1  | 0.7 | 3.4   | 4  | 16-43 |    |
| 5  | 20B | Ⅲ  | 下呂石  | 6.5 | 9.6  | 2.6 | 104.2 | 2  |       |    |
| 6  | 20B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.7 | 4.8  | 0.8 | 12.5  | 2  | 16-42 |    |
| 7  | 21B | Ⅲ  | 下呂石  | 5.5 | 10.8 | 3.0 | 118.1 | 4  | 16-46 |    |

## 両極剥離痕を持つ石器

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材  | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ  | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|
| 1  | 16B | Ⅲ  | 下呂石 | 3.4 | 2.3 | 1.2 | 8.5 | 16-47 |    |
| 2  | 17B | Ⅲ  | 下呂石 | 2.5 | 2.6 | 1.1 | 6.2 | 16-49 |    |
| 3  | 21B | Ⅲ  | 下呂石 | 3.2 | 2.2 | 1.2 | 9.1 | 16-48 |    |

## 尖頭器

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ    | 幅   | 厚さ  | 重さ     | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-------|-----|-----|--------|-------|----|
| 1  | 13B | Ⅲ  | 珪質頁岩 | (8.1) | 2.5 | 0.7 | (17.3) | 14-31 |    |

## 二次加工のある剥片

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ   | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|-------|----|
| 1  | 12B | Ⅲ  | 下呂石  | 6.7 | 6.1 | 1.8 | 55.7 |       |    |
| 2  | 14B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.6 | 4.5 | 1.4 | 29.1 | 17-50 |    |
| 3  | 14B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.2 | 3.6 | 1.0 | 16.6 |       |    |
| 4  | 14B | Ⅲ  | チャート | 2.8 | 2.2 | 0.9 | 6.9  | 17-55 |    |
| 5  | 15B | Ⅲ  | 下呂石  | 3.3 | 2.5 | 0.7 | 5.3  | 17-53 |    |
| 6  | 15B | Ⅲ  | 下呂石  | 5.1 | 3.2 | 0.4 | 6.9  | 17-51 |    |
| 7  | 15B | Ⅲ  | 下呂石  | 3.3 | 3.0 | 0.7 | 7.4  |       |    |
| 8  | 16B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.3 | 2.7 | 1.0 | 10.6 | 17-52 |    |
| 9  | 16B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.8 | 4.9 | 0.8 | 7.7  |       |    |
| 10 | 19B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.6 | 2.8 | 0.8 | 3.7  | 17-54 |    |
| 11 | 21B | Ⅲ  | 下呂石  | 3.0 | 3.2 | 0.8 | 5.4  |       |    |

## 使用痕のある剥片

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材   | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ   | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|-------|----|
| 1  | 12B | Ⅲ  | 下呂石  | 2.9 | 4.5 | 1.3 | 13.1 |       |    |
| 2  | 13B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.5 | 3.8 | 1.1 | 17.5 |       |    |
| 3  | 14B | Ⅲ  | 下呂石  | 5.4 | 4.4 | 1.5 | 27.3 | 17-58 |    |
| 4  | 15A | Ⅲ  | 下呂石  | 3.1 | 2.2 | 0.4 | 2.1  |       |    |
| 5  | 15B | Ⅲ  | チャート | 4.9 | 4.1 | 1.2 | 19.2 | 17-57 |    |
| 6  | 15B | Ⅲ  | チャート | 4.7 | 3.1 | 1.0 | 7.4  |       |    |
| 7  | 19B | Ⅲ  | 下呂石  | 4.3 | 2.9 | 0.6 | 4.8  | 17-56 |    |

## 打製石斧

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材  | 長さ     | 幅     | 厚さ    | 重さ      | 分類 | 折損 | 挿図番号  | 備考      |
|----|-----|----|-----|--------|-------|-------|---------|----|----|-------|---------|
| 1  | 9B  | Ⅱ  | 凝灰岩 | (6.1)  | (5.1) | 1.0   | (46.2)  | -  | b  |       |         |
| 2  | 10B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (5.5)  | (6.1) | (1.6) | (65.9)  | -  | b  |       |         |
| 3  | 10B | Ⅲ  | 凝灰岩 | 10.8   | 4.9   | 2.0   | 159.5   | 1  |    | 18-63 |         |
| 4  | 10B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (8.6)  | 5.7   | 1.9   | (138.5) | 1  | a  |       |         |
| 5  | 11B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (8.4)  | 5.1   | (1.5) | (82.9)  | 1  | b  |       |         |
| 6  | 11B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (4.2)  | (5.9) | (1.5) | (42.2)  | -  | b  |       |         |
| 7  | 11B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (13.0) | (8.2) | 3.4   | (414.6) | -  | a  |       |         |
| 8  | 11B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (13.0) | 7.8   | 4.2   | (478.5) | 1  | d  |       |         |
| 9  | 11B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (9.6)  | (6.0) | 2.2   | (158.8) | -  | a  |       |         |
| 10 | 11B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (9.5)  | 5.8   | 2.7   | (197.9) | 1  | b  |       |         |
| 11 | 11B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (11.6) | 9.8   | 3.1   | (385.8) | -  | b  |       |         |
| 12 | 11B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (6.3)  | (5.6) | 2.2   | (85.3)  | -  | b  |       |         |
| 13 | 12B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (10.4) | 5.9   | 2.9   | (208.9) | 1  | b  |       |         |
| 14 | 12B | Ⅲ  | 流紋岩 | 8.7    | 5.4   | 1.3   | 76.6    | 1  |    |       |         |
| 15 | 12B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (8.9)  | 5.9   | 2.0   | (150.3) | 1  | b  |       |         |
| 16 | 12B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (7.3)  | (5.5) | (2.3) | (84.4)  | -  | a  |       |         |
| 17 | 12B | Ⅲ  | 凝灰岩 | 10.9   | 4.7   | 2.2   | 134.5   | 1  |    | 18-62 |         |
| 18 | 12B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (10.8) | 4.1   | 1.3   | (66.1)  | 1  | c  |       |         |
| 19 | 13A | Ⅲ  | 凝灰岩 | (7.2)  | 6.4   | 1.7   | (113.3) | 1  | b  |       |         |
| 20 | 13B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (11.1) | 5.3   | 2.3   | (199.9) | 1  | b  |       |         |
| 21 | 13B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (9.0)  | (5.9) | 2.4   | (147.0) | 1  | b  |       |         |
| 22 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (9.6)  | 6.3   | 2.8   | (201.9) | 1  | b  |       |         |
| 23 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | 12.1   | 5.5   | 1.6   | 174.3   | 1  |    |       |         |
| 24 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (8.1)  | 6.1   | 2.4   | (143.5) | 1  | b  |       |         |
| 25 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (4.5)  | (4.4) | (0.9) | (18.1)  | -  | d  |       |         |
| 26 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (6.2)  | (5.6) | 1.6   | (72.9)  | 1  | b  |       |         |
| 27 | 13B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (6.3)  | 5.0   | 1.8   | (83.9)  | 1  | a  |       |         |
| 28 | 14A | Ⅱ  | 凝灰岩 | 10.7   | 4.9   | 1.8   | 119.7   | 3  |    | 18-64 |         |
| 29 | 14A | Ⅱ  | 凝灰岩 | 10.2   | 4.8   | 1.6   | 101.5   | 1  |    |       |         |
| 30 | 14B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (7.2)  | 6.0   | 1.8   | (115.3) | 1  | b  |       |         |
| 31 | 15B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (8.9)  | (5.9) | 2.7   | (188.0) | -  | b  |       |         |
| 32 | 15B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (4.6)  | (3.7) | (0.9) | (15.9)  | -  | a  |       |         |
| 33 | 15B | Ⅱ  | 凝灰岩 | (10.0) | 5.0   | 2.3   | (152.9) | 1  | b  | 18-61 |         |
| 34 | 15B | Ⅲ  | 凝灰岩 | 11.9   | 5.2   | 2.5   | 217.2   | 3  |    | 18-67 |         |
| 35 | 15B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (8.8)  | (5.2) | 2.2   | (104.0) | -  | a  |       |         |
| 36 | 15B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (6.0)  | (3.9) | (2.3) | (57.6)  | -  | d  |       |         |
| 37 | 15C | Ⅲ  | 凝灰岩 | (9.2)  | 10.0  | (2.1) | (236.5) | 3  | b  | 18-72 | 39と同一個体 |
| 38 | 16B | Ⅲ  | 凝灰岩 | 8.6    | 4.3   | 1.0   | 51.9    | 1  |    | 18-68 |         |
| 39 | 16B | Ⅲ  | 凝灰岩 | (13.4) | (6.8) | 2.2   | (294.6) | 3  | d  | 18-71 | 37と同一個体 |

| 番号 | 出土区 | 層位  | 石材  | 長さ     | 幅      | 厚さ    | 重さ      | 分類 | 折損 | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|-----|-----|--------|--------|-------|---------|----|----|-------|----|
| 40 | 16B | III | 凝灰岩 | (8.6)  | 6.5    | (2.4) | (164.4) | 1  | b  |       |    |
| 41 | 16B | III | 凝灰岩 | 9.1    | 5.3    | 1.2   | 129.6   | 1  |    |       |    |
| 42 | 16B | III | 凝灰岩 | (10.3) | 6.2    | 2.2   | (235.3) | 1  | b  |       |    |
| 43 | 17B | III | 凝灰岩 | (8.6)  | (6.0)  | (2.7) | (133.3) | —  | b  |       |    |
| 44 | 17B | III | 凝灰岩 | 14.1   | 5.8    | 2.4   | 267.1   | 1  |    | 18-66 |    |
| 45 | 17B | III | 凝灰岩 | 9.1    | 4.7    | 1.5   | 88.6    | 1  |    |       |    |
| 46 | 17B | III | 凝灰岩 | (9.0)  | 6.0    | 1.9   | (125.8) | 1  | b  |       |    |
| 47 | 19B | III | 凝灰岩 | (15.5) | (10.0) | 2.3   | (381.2) | 3  | a  |       |    |
| 48 | 19B | III | 凝灰岩 | (9.1)  | (5.9)  | 1.9   | (108.3) | 1  | a  |       |    |
| 49 | 20B | II  | 凝灰岩 | 15.0   | 8.5    | 2.6   | 398.3   | 3  |    | 18-65 |    |
| 50 | 20B | II  | 凝灰岩 | (7.5)  | 5.3    | 1.4   | (71.6)  | 1  | a  |       |    |
| 51 | 20B | III | 凝灰岩 | 16.2   | 9.6    | 2.3   | 376.6   | 3  |    | 18-69 |    |
| 52 | 20B | III | 凝灰岩 | 15.3   | 8.3    | 3.8   | 565.5   | 1  |    | 18-70 |    |

## 磨石・凹石・敲石

| 番号 | 出土区 | 層位  | 石材  | 長さ     | 幅     | 厚さ    | 重さ       | 分類   |             | 表面の状況 | 挿図番号  | 備考 |
|----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|----------|------|-------------|-------|-------|----|
|    |     |     |     |        |       |       |          | 形態   | 凹みの数と形状     |       |       |    |
| 1  | 12B | III | 凝灰岩 | 8.3    | 7.0   | 4.0   | 371.6    | II b | • •         | B     | 19-77 |    |
| 2  | 13B | II  | 凝灰岩 | (10.1) | (9.5) | (7.3) | (876.0)  | —    | • •         | A     |       |    |
| 3  | 13B | II  | 凝灰岩 | (9.0)  | (7.4) | (6.7) | (495.1)  | —    | • •         | A     |       |    |
| 4  | 13B | III | 砂岩  | 12.2   | 7.7   | 5.4   | 766.2    | IV   | • •         | A     | 19-84 |    |
| 5  | 15B | II  | 凝灰岩 | 11.8   | (8.8) | 6.5   | (1008.3) | II b | • •         | A     | 19-76 |    |
| 6  | 15B | III | 凝灰岩 | 8.1    | 7.8   | 6.5   | 601.0    | I b  | • •         | A     | 19-73 |    |
| 7  | 15B | III | 凝灰岩 | 10.8   | 4.8   | 5.0   | 427.1    | II a | • •         | A     | 19-74 |    |
| 8  | 15B | III | 凝灰岩 | 12.2   | 9.7   | 4.0   | 681.8    | II b | 3 • 0 • 0 1 |       | 19-81 |    |
| 9  | 16B | II  | 凝灰岩 | (10.0) | 8.0   | 5.9   | (482.1)  | II b | 1 • 0 • 0 1 | A     | 19-82 |    |
| 10 | 18B | III | 凝灰岩 | 8.5    | 7.3   | 4.1   | 377.8    | II b | 1 • 0 • 0 1 |       | 19-78 |    |
| 11 | 20B | III | 凝灰岩 | (10.6) | 9.0   | 4.6   | (649.2)  | II b | • •         | B     | 19-80 |    |
| 12 | 20B | III | 凝灰岩 | (13.5) | 8.5   | 4.4   | (690.3)  | —    | • •         | A     | 19-85 |    |
| 13 | 20B | III | 凝灰岩 | (13.9) | 7.8   | 4.2   | (377.8)  | II b | • •         | B     | 19-79 |    |
| 14 | 21B | III | 凝灰岩 | (9.8)  | 7.8   | 4.8   | (560.0)  | II b | • •         | A     | 19-75 |    |
| 15 | 21B | III | 凝灰岩 | (9.2)  | 6.4   | 4.7   | (337.0)  | II c | • •         | B     | 19-83 |    |

## 石皿

| 番号 | 出土区 | 層位 | 石材  | 長さ     | 幅      | 厚さ    | 重さ       | 備考 |  |  |
|----|-----|----|-----|--------|--------|-------|----------|----|--|--|
| 1  | 13B | II | 凝灰岩 | (20.1) | (15.4) | (7.2) | (2780.0) |    |  |  |

## 第4章 まとめ

阿多柏遺跡の発掘調査の概要は、前章まで述べた通りである。本章では、発掘調査の成果をまとめ、その意義についてふれることにする。

阿多柏遺跡の所在地は、太平洋側と日本海側を結ぶ国道41号線から東へ約500m入った所にあり、深い谷筋を上ると、意外と開けた扇状地があって、集落が営まれている。近世において、口留番所が置かれた所であり、第2章で述べた通り、かつては交通の要衝であった。

発掘調査の結果、遺物の出土状況から見て、遺跡の中心部は調査地点の東北の方に広がっていたようである。出土した遺物は磨耗が激しく、流れ込みの状況で出土したもののが多かった。また、調査地点の西側は谷地形になっていた。安定した生活面の広がりは乏しく、残念ながら遺構は検出されなかった。しかし、遺物としては、最下層から尖頭器が出土し、縄文早期から晩期までの各時期の土器や石器が出土した。この地域に脈々と続いてきた生活の跡をかいま見ることができたのである。

出土遺物では、無文の土器片が多かった。有文の土器では、縄文時代後期中葉の土器片が比較的多かった。石器類では、石鎚や打製石斧が比較的多く出土したが、後期のものが多いであろう。

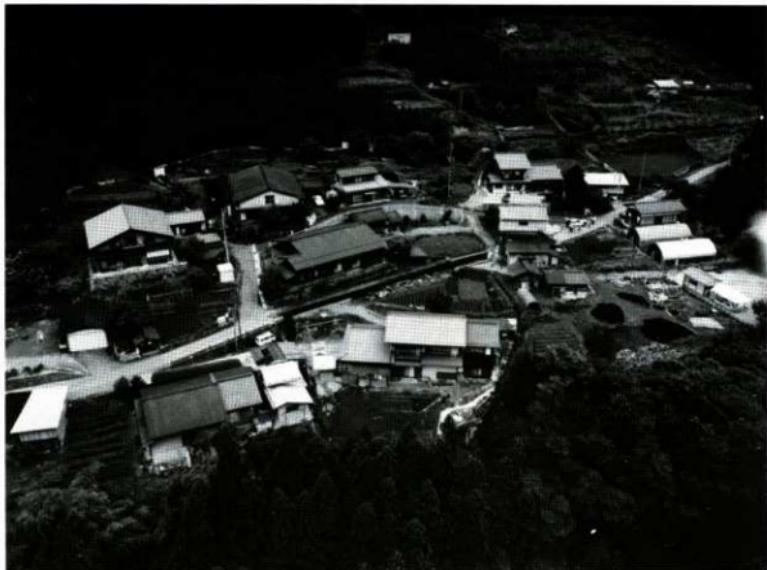
遺物包含層の下層からは早期の土器が出土しているが、その中でも押型文土器が注目される。山形文のほか、楕円文の帶状施文の間に沈線が入るものがある。また、黒鉛入り土器も出土しており、沢式に比定される。同様の組成が、細越峠を越えて、阿多柏遺跡の東方約10kmの所にある大野郡朝日村中道遺跡の押型文土器に見られる。さらに、阿多柏遺跡からは尖頭器も出土しているが、細越峠から南へ約1kmの所にある朝日村西洞遺跡からは、神子柴型の大形尖頭器が出土している点も興味深い。古来より近世までさかんに利用された峠越えのルートは、縄文時代あるいはそれ以前においても、主要なルートであったのであろう。

量的には少しであるが、黒曜石も出土している。産地同定をしてみないと確定しないが、やはり、峠を越えてさらに信州方面とのつながりも十分予想される。ルートの解明は簡単には結論が出せない問題ではあるが、今後の研究課題となろう。

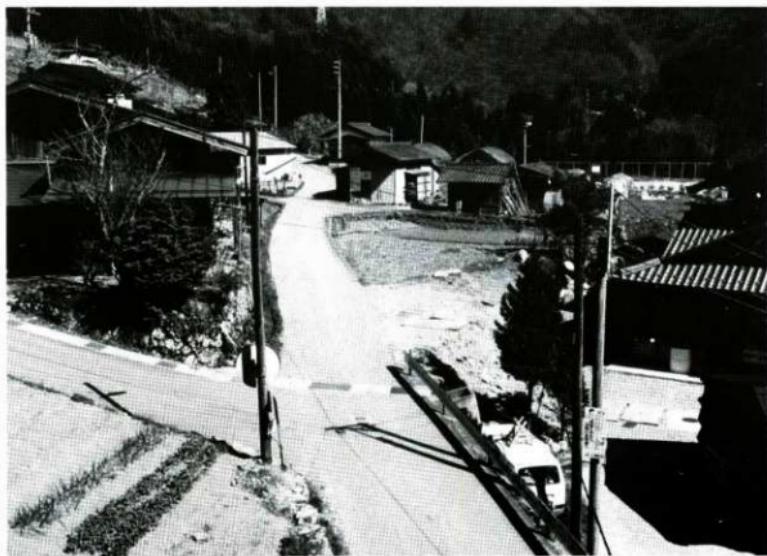
今回の阿多柏遺跡の発掘調査は、高山山林事業所のふるさと林道開設事業に伴う事前調査であったが、奇しくも、まさに縄文のふるさとの道に立地する遺跡の発掘調査であったと言える。

## 引用・参考文献

- 江馬ミサオ 1937 「諸出土縄文土器」『ひだびと』5-10
- 大野政雄・佐藤達夫 1967 「岐阜県沢遺跡調査予報」『考古学雑誌』53-2
- 大參義一 1972 「第3章 縄文時代」『岐阜県史』
- 加藤晋平・鶴丸俊明 1991 「図録・石器入門事典<先土器>」
- 角川日本地名大辞典編集委員会 1978 『角川日本地名大辞典』21 岐阜県
- 岐阜県 1972 『岐阜県史』通史編原始
- 岐阜県教育委員会 1962 『岐阜県遺跡目録』
- 1990 『改定版 岐阜県遺跡地図』
- 小林 繁 1969 「秋神中道遺跡」『飛騨春秋』14-10
- 1970 「朝日村西洞出土の尖頭器」『飛騨春秋』15-4
- 上嶋善治 1992 『門坂シズマ遺跡』『岐阜県文化財保護センター』
- 1993 『藤原遺跡』『岐阜県文化財保護センター』
- 上嶋善治ほか 1997 『カクシクレ遺跡』『岐阜県文化財保護センター』
- 鈴木道之助 1981 『図録石器の基礎知識』III
- 戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』
- 林 魁一 1938 「岐阜縣に於ける住居跡と思はる石器時代遺跡及び石の蓋ありし縄文土器發見に就いて」『考古学論叢』9
- 菱村正文ほか 1972 『飛騨の街道』
- 飛騨考古土俗学会 編 1935 『飛騨石器時代遺跡地名表』
- 増子康真 1995 「飛騨における縄文中期前葉土器群の検討」『飛騨と考古学』
- 山中一郎ほか 1982 『大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告Ⅱ』
- 吉朝則富 1995 「飛騨の大形・中形尖頭器について」『どっこいし』第50号



1



2

1. 遺跡遠景 2. 発掘前の状況



1



2



3

1. 遺跡全景 2. 発掘後の状況 3. 作業風景



1. 7B区トレンチ北壁 2. 9B区トレンチ北壁 3. 10B～11B区北壁



1

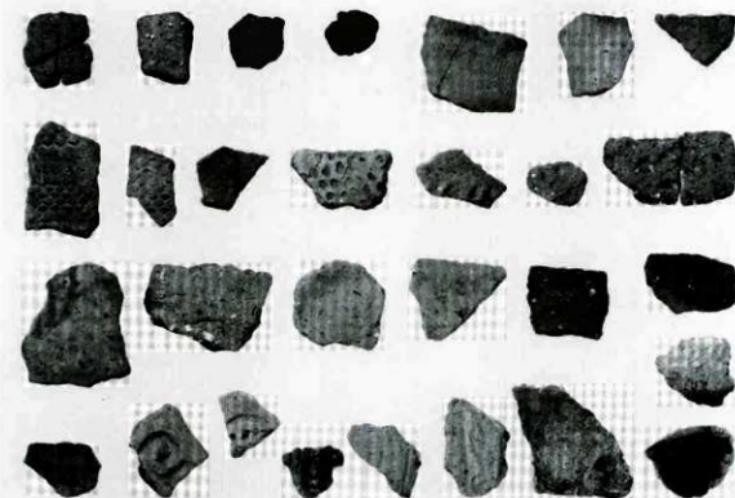


2

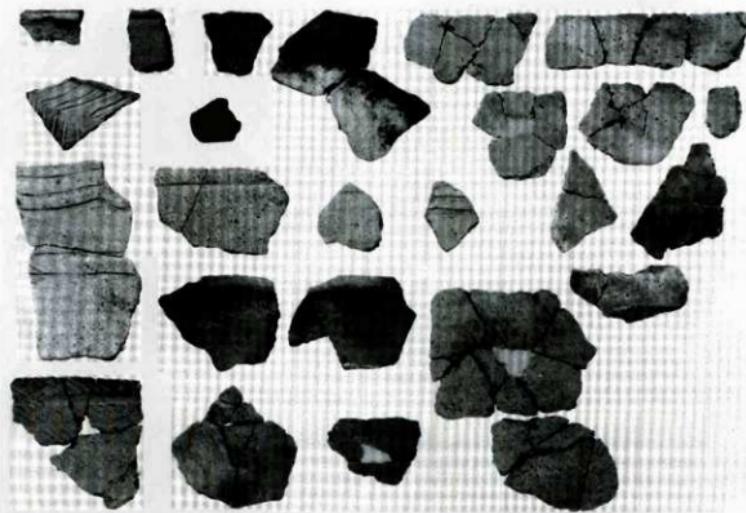


3

1. 14B区北壁 2. 遗物出土状况 3. 尖头器出土状况

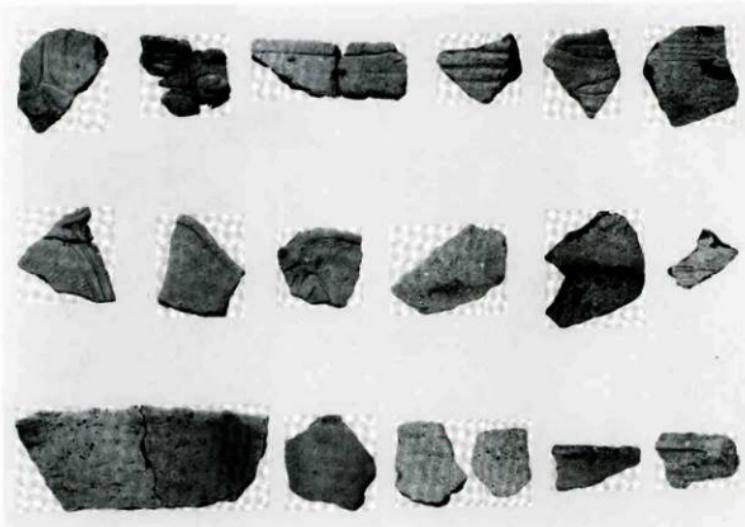


1

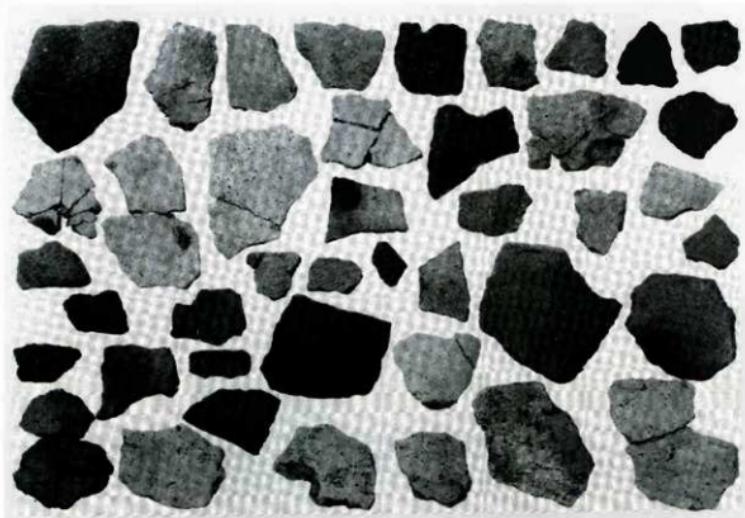


2

1. 縄文土器 第Ⅰ・Ⅱ群 2. 縄文土器 第Ⅲ群

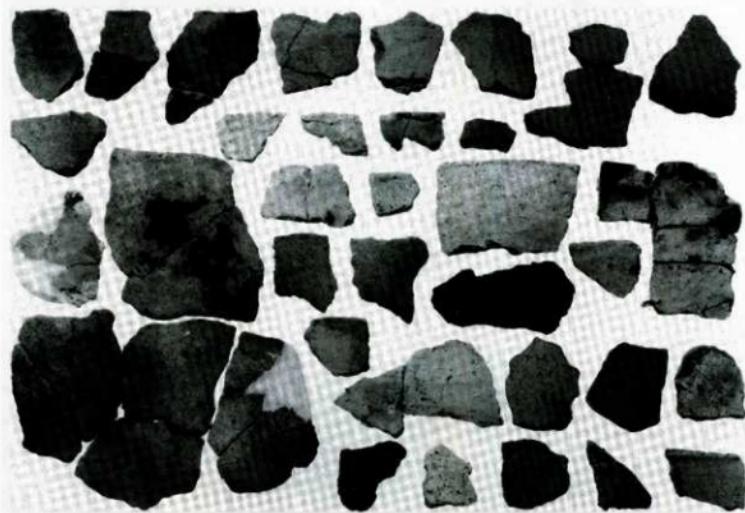


1



2

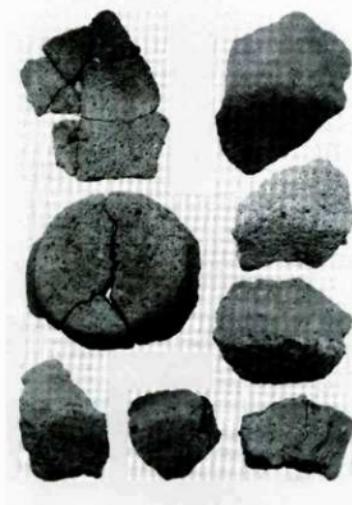
1. 繩文土器 第IV群 2. 繩文土器 第V・VI群



1



2

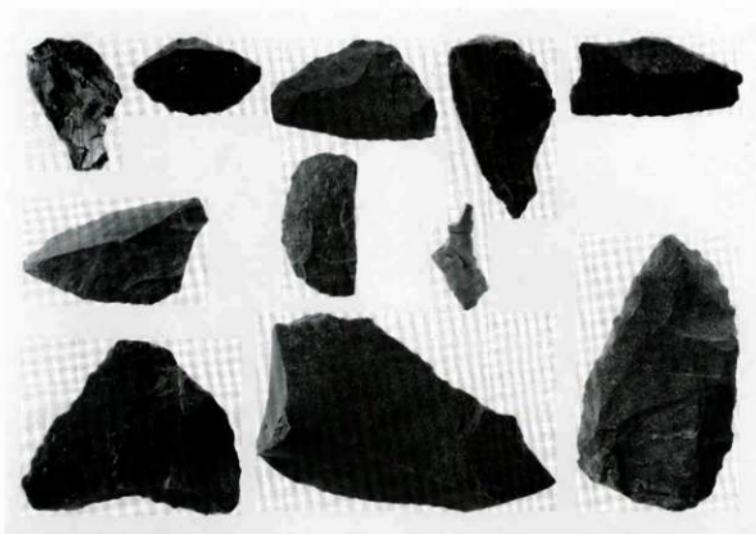


3

1・2. 繩文土器 第VII群 3. 繩文土器 底部

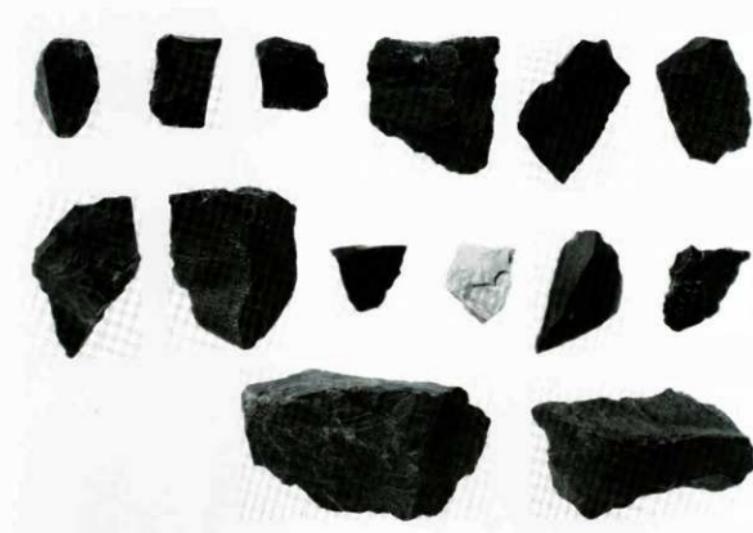


1

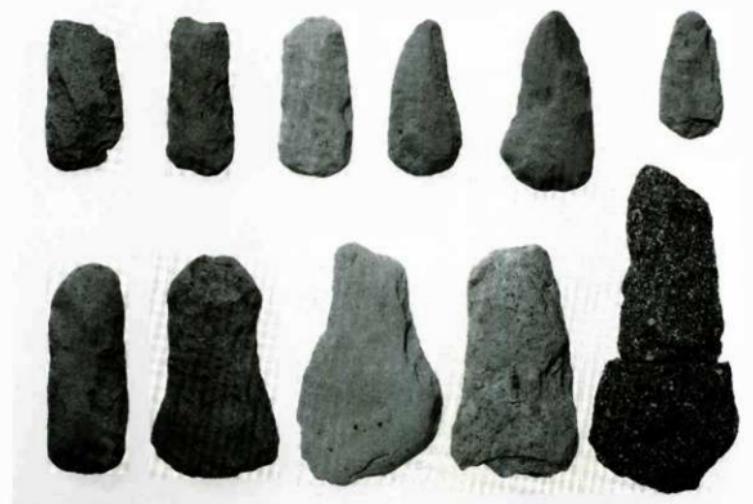


2

1. 石器類 石鏃・石錐・尖頭器・石匙 2. 石器類 削器・搔器

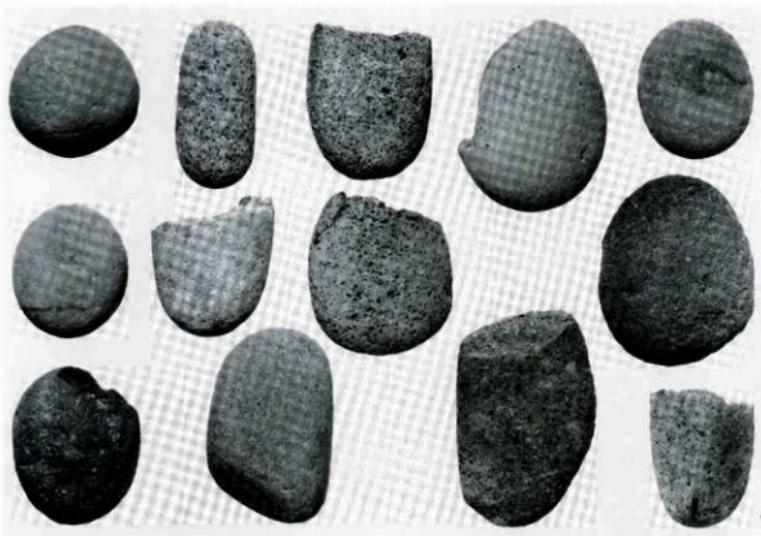


1



2

1. 石器類 両極剥離痕のある石器・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・石核 2. 石器類 打製石斧



1

1. 石器類 磨石・鬪石・敲石器

## 報告書抄録

| ふりがな          | あたがすいせき  |       |       |  |   |  |                            |
|---------------|--|-------|-------|--|---|--|----------------------------|
| 書名            | 阿多柏遺跡  |       |       |  |   |  |                            |
| 副書名           | ふるさと林道開設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                          |       |       |  |   |  |                            |
| 巻次            |  |       |       |  |   |  |                            |
| シリーズ名         | 岐阜県文化財保護センター調査報告書                                  |       |       |  |   |  |                            |
| シリーズ番号        | 第41集   |       |       |  |   |  |                            |
| 編著者名          | 上嶋善治 藤岡比呂志   |       |       |  |   |  |                            |
| 編集機関          | 財団法人 岐阜県文化財保護センター                                  |       |       |  |   |  |                            |
| 所在地           | 〒500-8708 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内) TEL 058-264-1111(814) |       |       |  |   |  |                            |
| 発行年月日         | 1998年3月31日   |       |       |  |   |  |                            |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地  | コード   |       | 北緯                                       | 東経  | 調査期間<br>調査面積                               | 調査原因                       |
| 市町村           | 遺跡番号   |       |       |  |   |  |                            |
| あたがす<br>阿多柏遺跡 | ぎふけんおおのぐん<br>岐阜県大野郡<br>くぐのちょうあたがす<br>久々野町阿多柏       | 21606 | 00685 | 35°<br>59'<br>02"                        | 137°<br>17'<br>18"  | 19970516～<br>19970704<br>300m <sup>2</sup> | ふるさと林道<br>線開設事業に<br>伴う事前調査 |
| 所収遺跡名         | 種別   | 主な時代  | 主な遺構  | 主な遺物                                     |   | 特記事項                                       |                            |
| 阿多柏遺跡         | 散布地  | 縄文    | なし    | 縄文土器<br>石器類(石鎌・石<br>錐・石匙・打製石<br>斧・尖頭器など) | 遺構は検出されず。縄<br>文土器は、早期から晩期<br>まであるが、後期中葉が<br>主である。石器類では、<br>石鎌が比較的多い、尖頭<br>器が1点出土。 |  |                            |

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第41集

## 阿多柏遺跡

ふるさと林道開設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998年3月25日 印刷

1998年3月31日 刊行

編集・発行 財團法人岐阜県文化財保護センター  
岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）

印 刷 大 進 社 高山市有楽町40番地